平成２６年度

第２３回　河内長野市地域公共交通会議次第

日時　平成２６年8月１１日（月）

午後3時３０分から

場所　河内長野市役所　８０２会議室

１．開会

２．議題

（１）「第３期河内長野市地域公共交通網形成計画」（素案）について

（２）その他

３．閉会

第３期 河内長野市地域公共交通網形成計画（素案）
～ 乗ってはってん 公共交通 ～
（発展）

【平成２７年度～平成２９年度】

１．はじめに

➢　これまでの経緯

公共交通は市民生活を支える大切な交通手段ですが、自動車への過度な依存や少子高齢化の進展など、様々な要因から利用者の減少傾向が続く中、本市では、これからの河内長野市の公共交通をどのように守り育てていくのか、その基本的な方針として「河内長野市公共交通のあり方」を平成２０年度に策定し、本市の実情に即した持続可能な公共交通の確保を目指しています。

平成２１年以降、このあり方に基づく実施計画として「河内長野市地域公共交通総合連携計画」の第１期、第２期を策定し、バス利用者数の確保、公共交通空白・不便地域の解消、協働による取り組み体制の構築を目標に掲げ、本計画に基づく取り組みを進めてきました。

特に、モックルコミュニティバスは上限２００円運賃を試行し、利用者が増加している全国的にも珍しい事例です。また、地域主体の取り組みにより、楠ヶ丘地域において乗合タクシーを運行し、利用者の好評を得ています。

➢　第３期河内長野市地域公共交通網形成計画策定にあたって

これまでに公共交通の各種取り組みを行ってきましたが、近年は、さらなる人口減少や高齢化が進む中、地域の活力を維持・強化するためには、都市核に各種機能を集約したコンパクトなまちづくりを推進するとともに、公共交通ネットワークの確保、利便性の高い公共交通の確保が喫緊の課題となっています。こうした取り組みで、高齢者や、運転免許・自動車を保有しない人等、誰もが安心して生活できる移動環境が構築でき、外出機会が増えることによって交流が活性化することが期待されます。

また、市民だけでなく来訪者にとっても利用しやすい公共交通を構築し、交流人口が増加することにより、地域としての活性化が期待されます。

一方で、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律案」が平成２６年２月に閣議決定され、地域公共交通総合連携計画は、持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生を図るための「地域公共交通網形成計画*」に改正されました。

この度は、こうした動向に対応し、これまでの取り組み実績や課題等を踏まえて、さらなる展開を図り、持続発展できる公共交通を確保するため、「（仮称）第３期河内長野市地域公共交通網形成計画」を策定しました。

本計画では、さらなる公共交通の発展を図るため、これまでの取り組みを踏まえた今後３年間の取り組み施策を検討するとともに、公共交通サービス水準の向上を図りました。

＊地域公共交通網形成計画は、特にまちづくりや観光振興等の地域戦略と一体となった公共交通ネットワークの形成に重点を置いています！

2．これまでの取り組みと課題

➢ 第２期河内長野市地域公共交通総合連携計画における取り組み状況

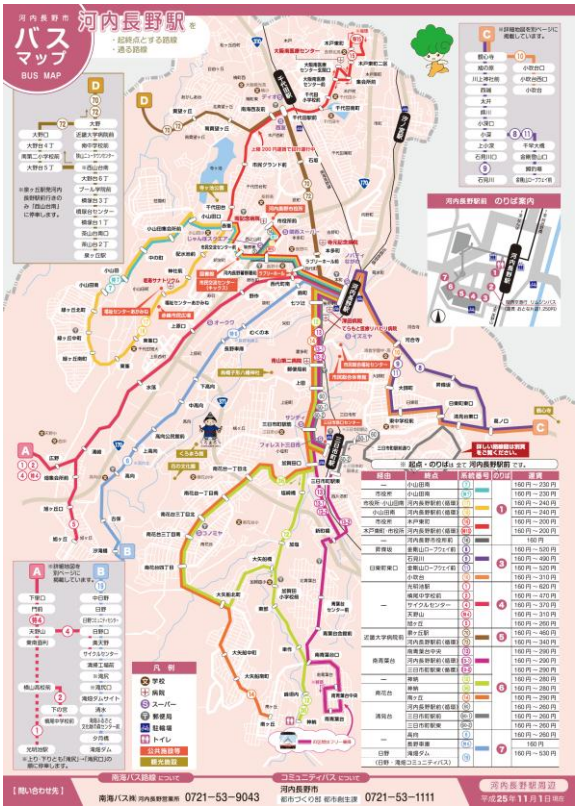
1 主な取り組みの紹介

第２期河内長野市地域公共交通総合連携計画の中で実現した、主な取り組み５件について紹介します。

1.バスマップの作成・配布
2.バス旅ガイドの配布
3.千代田線上限 200 円運賃
4.フリー乗降
5.同伴者割引

1.バスマップの作成・配布〔取り組みの全体概要　p5（1）①（b)〕

平成２５年度に「河内長野市バスマップ」（１部５枚綴り・クリアファイル入り）を 50,000 部作成し、平成２５年の１１月号広報紙に折り込み全戸配布するとともに、転入者に窓口にて配布しました。

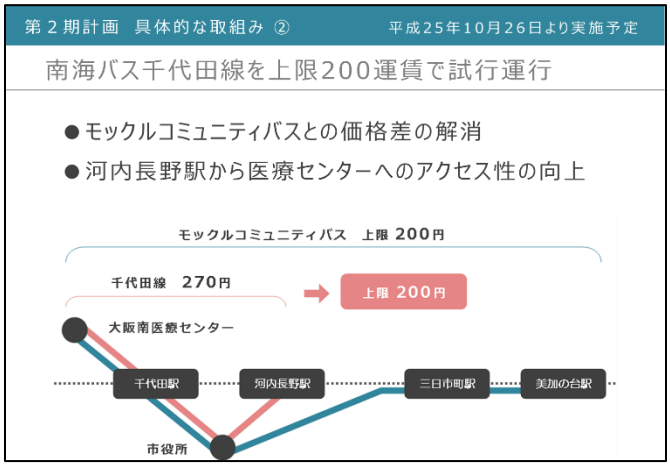


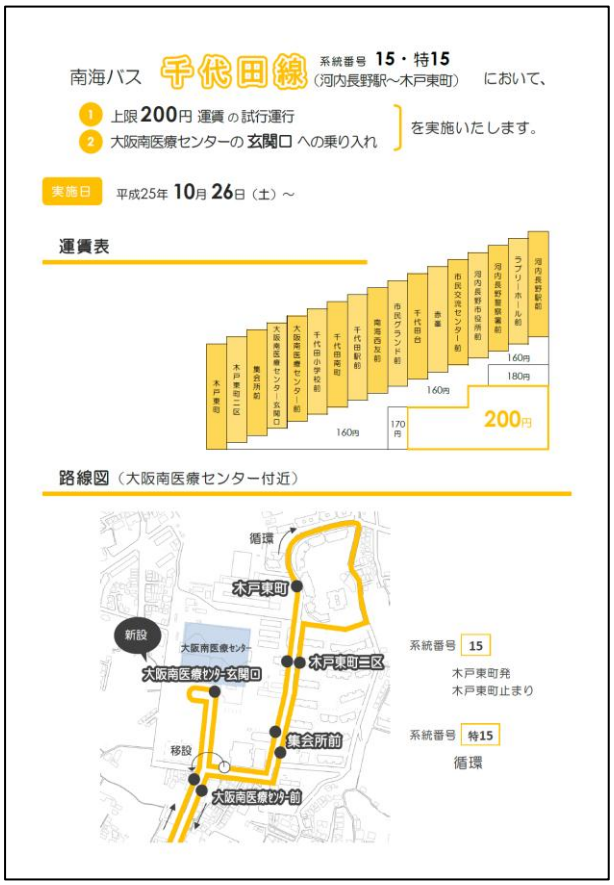
2.バス旅ガイドの配布〔取り組みの全体概要　p5（1）②、③〕

平成２５年度に「河内長野市バス旅ガイド」（チラシ）を 5,000 部作成し、駅、観光案内所、観光施設、公共施設などにて配布しました。

3.千代田線上限 200 円運賃〔取り組みの全体概要　p6（2）②〕

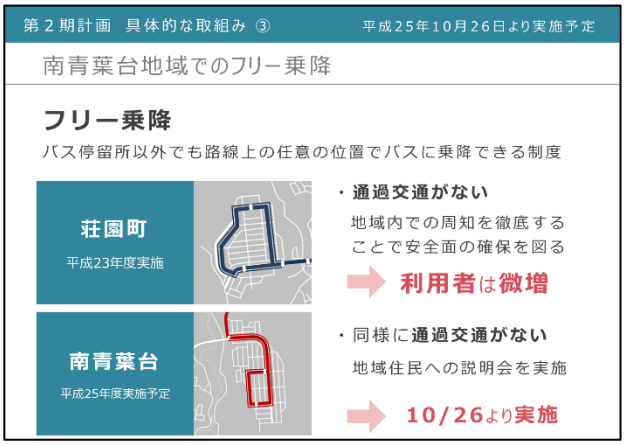
平成２５年１０月２６日より、モックルコミュニティバスを上限運賃２００円としたことに伴い、価格差を解消するために南海バスの千代田線において、上限２００円運賃での試行運行を実施しました。





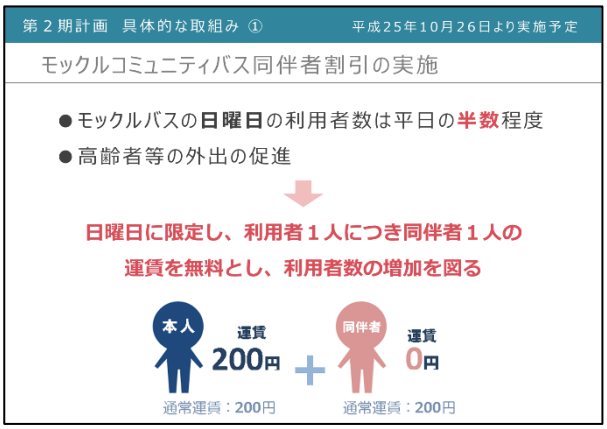
4.フリー乗降〔取り組みの全体概要　p6（2）③〕

平成２５年１０月２６日より、バス乗降箇所の拡大による利便性向上を図るため、荘園町で好評だったフリー乗降を南青葉台でも新規に実施しました。



5.同伴者割引〔取り組みの全体概要　p6（3）②（b)〕

平成２５年１０月２６日より、利用者数が少ない日曜日に限定して、モックルコミュニティバスの利用者１人につき同伴者１人の運賃を無料とするサービスの試行を実施しました。



2 取り組みの全体概要と課題

第２期河内長野市地域公共交通総合連携計画で策定した取り組みの全体概要について、現時点での取り組み概要と課題を示します。

1. 公共交通利用促進策の実施

計画の目標：バス利用者数の確保

事業対象	分類	具体的な取り組み	実施概要	課題
（1）公共交通全般	①公共交通利用促進の啓発	(a)バス利用の手引きの作成、配布等 (b)バスマップの作成・配布 主な取り組み 1	○平成 24 年度：検討 ○平成 25 年度：「河内長野市バスマップ」（1 部 5 枚綴り・クリアファイル入り）を 50,000 部作成し、平成 25 年の 11 月号広報紙に折り込み全戸配布するとともに、転入者に窓口にて配布した。 ○平成 26 年度：河内長野市地域公共交通会議にて、平成 25 度の実績を踏まえ、さらなる協議、検討を進め、作成、配布予定。	○バスマップ配布による効果検証 ○利用者等の改善意向
		(c)モデル的な取り組みの他地域へ啓発	○平成 24 年度：検討 ○平成 25 年度：勉強会の開催募集の際に、楠ヶ丘地域の取り組みを参考資料として送付した。 ※勉強会の開催募集：地域において日頃の移動に不便を感じている方々の移動手段の確保に向け、現状を把握し、問題点の整理や解決策の検討を行うことを目的とする勉強会の開催を希望する団体を募集した。 ○平成 26 年度：希望団体と勉強会を開催した際に、楠ヶ丘地域の取り組みやメリットを説明し、モデル地域の啓発を図った。	○勉強会の継続的実施
	②観光との連携	観光資源と路線バスを活用した取り組みの実施 主な取り組み 2	○平成 24 年度：検討 ○平成 25 年度：「河内長野市バス旅ガイド」（チラシ）を 5,000 部作成し、駅、観光案内所、観光施設、公共施設などにて配布した。 ○平成 26 年度：河内長野市地域公共交通会議にて、今年度の実績を踏まえ、さらなる協議、検討を進め、作成、配布予定。	○バス旅ガイド配布による効果検証 ○連携する観光資源、商業施設の拡大 ○魅力ある特典の検討
	③商業施設との連携	商業施設等と連携した特典の提供等の検討		
	④福祉との協力	(a)ノンステップバス導入の推進	○平成 24 年度：2 台導入 ○平成 25 年度：導入見送り。 ○平成 26 年度：導入見送り予定。	○継続的推進
		(b)モックルコミュニティバスと福祉施設送迎バスとの乗り継ぎの検討	○平成 24 年度：モックルコミュニティバスと福祉センター送迎バスとの時刻表をまとめたものを作成し、福祉センターにて掲示している。 ○平成 25 年度：24 年度同様 ○平成 26 年度：検討	○利用者等のニーズに応じた対応策の検討
		(c)福祉有償運送と公共交通の連携の検討	○平成 24 年度：検討 ○平成 25 年度：検討 ○平成 26 年度：検討	

事業対象	分類	具体的な取り組み	実施概要	課題
(2)路線バス	①料金支払い時の利便性向上	IC カードシステム導入の検討	○平成 24 年度:未検討 ○平成 25 年度:南海バスと導入について協議し、3 月の河内長野市地域公共交通会議にて、生活交通改善事業計画(利用環境改善促進等事業)を審議の上、策定。 ○平成 26 年度:年度内に導入予定。	○ICカードの普及促進につながる料金割引施策等の検討
	②乗車運賃の割引	上限200円運賃の他路線への展開を検討 主な取り組み 3	○平成 24 年度:南海バス、大阪南医療センターと運行について協議。 ○平成 25 年度:10 月 26 日より、南海バスの千代田線において、上限 200 円運賃での試行運行を実施。 ○平成 26 年度:試行運行継続。	○上限 200 円運賃による効果検証
	③バス乗降箇所の拡大による利便性向上	フリー乗降の展開 主な取り組み 4	○平成 24 年度:導入なし ○平成 25 年度:10 月 26 日より、南青葉台にてフリー乗降実施。 ○平成 26 年度:導入予定なし	○フリー乗降実施による効果、課題検証 ○適合地区の検討と実施区間の拡大
	④新規路線導入の検討	(a)深夜バスの運行を検討	○平成 24 年度:導入なし ○平成 25 年度:導入なし ○平成 26 年度:導入予定なし	○実現可能性がある路線の検討
		(b)路線バスの運行	○平成 24 年度:導入なし ○平成 25 年度:10 月 26 日より、南海バスの清見台団地線において、一部時間帯の河内長野駅前への路線延伸実施(新規路線の導入) ○平成 26 年度:導入予定なし	○路線延伸による効果検証 ○実現可能性がある地区の検討
(3)モックルコミュニティバス	①利用促進PR	(a)車内での PR	○平成 24 年度:検討 ○平成 25 年度:5 月より実施 ○平成 26 年度:継続実施	○継続的実施
		(b)市役所、バス停周辺施設、店舗等でのPR	○平成 24 年度:利用促進を図るため、市役所、公共施設等に利用者数や取り組み状況、利用を呼びかけるポスターを掲示し、PR を実施。 ○平成 25 年度:継続実施 ○平成 26 年度:継続実施	○PRによる効果検証 ○継続的実施と実施場所の拡大
	②乗車運賃の割引	(a)上限200円運賃の本格運行	○平成 24 年度:試行運行継続実施 ○平成 25 年度:試行運行継続実施 ○平成 26 年度:試行運行継続実施 ※平成 22 年度より試行運行中	○本格運行基準の検討 ○利用者数の増加
		(b)同伴者割引の試行 主な取り組み 5	○平成 24 年度:検討 ○平成 25 年度:10 月 26 日より、日曜日に限定して、モックルコミュニティバスの利用者1人につき同伴者1人の運賃を無料とするサービスの試行実施 ○平成 26 年度:試行継続	○効果検証 ○PR

事業対象	分類	具体的な取り組み	実施概要	課題
(4)日野・滝畑コミュニティバス	①運行ルートの見直し	農の拠点をまわる運行ルートの検討	○平成 24 年度:検討 ○平成 25 年度:庁内関係部署及び南海バスとともに、運行ルートの変更について協議 ○平成 26 年度:地域活性・交流拠点「奥河内くろまろの郷」の秋のオープンに伴う運行ルート変更の実施	○効果検証 ○PR
	②沿線施設における割引特典の実施の検討	沿線施設、店舗などとのタイアップの検討	○平成 24 年度:検討 ○平成 25 年度:花の文化園及び関西サイクルスポーツセンターとタイアップし、割引特典を掲載した「河内長野市バス旅ガイド」(チラシ)を 5,000 部作成し、駅、観光案内所、観光施設、公共施設などにて配布した。 ○平成 26 年度:25 年度同様チラシの作成において、さらなる沿線施設、店舗などとのタイアップを進め、割引特典の充実を図る。	○効果検証 ○連携する沿線施設、店舗の拡大 ○魅力ある特典の検討
(5)モックルコミュニティバス、日野・滝畑コミュニティバス	利用促進及び自主財源の確保	有料広告を掲載した時刻表・ルート図の作成及び配布、バス車内への有料広告掲載	○平成 24 年度:検討 ○平成 25 年度:「河内長野市バスマップ」にて、コミュニティバスのルート、運賃などの情報を掲載した。 ○平成 26 年度:河内長野市地域公共交通会議にて、バスマップと併せて、協議、検討を進め、作成、配布する。	○効果検証

2.公共交通を守り育てるための事業を実施

計画の目標：公共交通空白・不便地域の解消

事業対象	分類	具体的な取り組み	実施概要	課題
公共交通	地域に合った公共交通の検討	地域に合った公共交通の試行運行を検討	○平成 24 年度:検討 ○平成 25 年度:2 月から 3 月にかけて、地域において日頃の移動に不便を感じている方々の移動手段の確保に向け、現状を把握し、問題点の整理や解決策の検討を行うことを目的とする勉強会の開催を希望する団体を募集した。 (不便地域 3 箇所:該当自治会等 11 団体) ○平成 26 年度:希望団体と勉強会を開催した。 (5 月:1 団体、6 月:1 団体、7 月:1 団体)	○勉強会の推進による地域の主体性向上

➢　河内長野市における公共交通をとりまく課題

河内長野市ではこれまでに様々な取り組みを実施してきましたが、依然として以下のような課題が残されています。

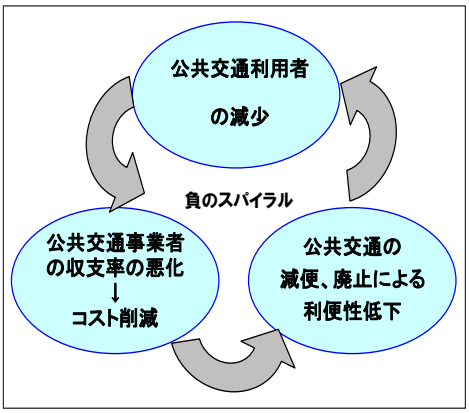
◆ まちづくりとの連携

河内長野市においては、移動の際の交通手段は自動車が半数弱に対して、鉄道及びバスの公共交通は２割弱と少なくなっています。公共交通が存在しない又は不便な地域は自動車への依存度が高くなり、これによって商業施設や生活関連施設等が鉄道駅周辺に集積するのではなく、幹線道路沿線等に拡散した自動車型のまちの構造となり、ますます自動車への依存度が高くなる恐れがあります。

しかし、今後、高齢化が進行し、自動車で移動できなくなると、公共交通の重要性が高くなることから、自動車に過度に依存しないまちの構造へと転換するとともに、公共交通を維持・発展させていく必要があります。

そのため、道路や住宅等の都市計画施策、環境面での取り組み、観光や商業施策など、様々なまちづくり施策と連携をして、実施する必要があります。

◆ 公共交通利用者数の維持・発展



公共交通の利用者数は減少傾向にありますが、利用者数の減少により、交通事業者の収支が悪化し、コスト削減による減便、路線廃止等によって利便性が低下し、さらに利用者が減少するといった負のスパイラルに陥る可能性があります。

モックルコミュニティバスは上限運賃を２００円としてから利用者が増加したものの、近年は減少に転じており、さらなる維持・発展が必要となっています。

また、楠ヶ丘地域の乗合タクシーは、地域主体の取り組みにより、運行開始当初よりも収支率が改善しましたが、平成２５年度時点で約７５％と収支率１００％には達しておらず、今後も継続的運行を図るため、利用者数の維持・発展が必要です。

このような状況を踏まえ、今後も公共交通利用者数を維持・発展させ、公共交通のネットワークや利便性を維持・発展させていくことが課題となります。

◆ 公共交通空白・不便地域の解消

市内には公共交通空白・不便地域が存在していますが、これらの地域では車が運転できない場合は、生活に必要な移動や外出機会が制約されることとなります。地域として存続していくためには交通手段の確保が必要不可欠であるため、既存の公共交通のネットワークを維持するとともに、ニーズに対応した見直し・再編や、公共交通空白・不便地域へ新たに公共交通を導入する等、公共交通空白・不便地域を解消していくことが課題となります。

３．第３期形成計画の基本方針

➢　上位関連計画における将来像と公共交通の位置づけ

公共交通に関する上位関連計画として、以下の３つの計画があります。ここでは、目指すべき将来都市像や公共交通に関する取り組みに着目して整理します。

①第４次河内長野市総合計画（平成１７年１２月）
②河内長野市都市計画マスタープラン（平成２４年３月改訂）
③河内長野市公共交通のあり方（平成２０年１０月）

①第４次河内長野市総合計画（平成１７年１２月）

◆まちづくりの理念

（１）「調和と共生のまちづくり」
（２）「元気なまちづくり」
（３）「協働のまちづくり」

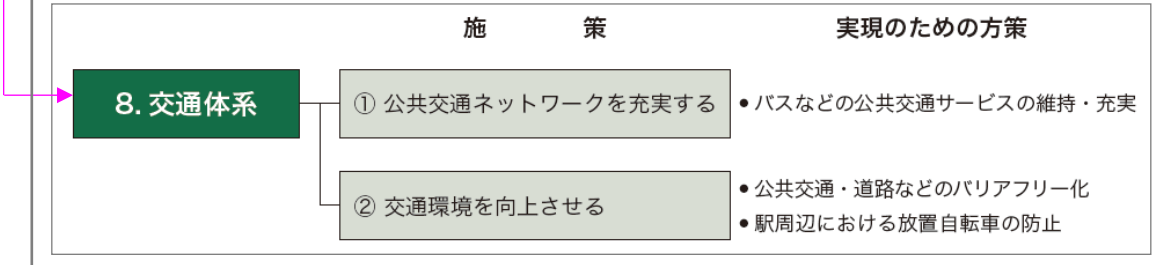
◆都市の将来像

みんなで創ろう　潤いめぐる　緑と文化の輝くまち　河内長野

◆まちづくりの目標

１）環境調和都市
２）共生共感都市
３）元気創造都市
４）安全安心都市
５）自律協働都市

◆公共交通の施策体系



◆目指すまちの姿

● バスなどの公共交通サービスに満足する市民の数が増えています
（「バスなどの公共交通サービス」に関する市民満足度）
● バスなどの公共交通サービスが充実しています
（バス営業キロ数）
● 交通環境のバリアフリー化が進んでいます
（バリアフリー基準の適合率）

②河内長野市都市計画マスタープラン（平成２４年３月改訂）

◆都市の将来像と基本理念

「良好な住環境の維持・向上」
「地域内循環システムの形成」
「地域産業の再生・ものづくり支援」

◆都市施設の整備方針

１）交通施設について
２）公園・緑地について
３）下水道・治山・治水について
４）その他の公共公益施設について

◆交通施設の整備方針

Ａ 交流と連携を図る道路網の整備
⑴ 広域幹線道路の整備
⑵ 市域幹線道路の整備
⑶ 身近な道路の整備

Ｂ 安全で快適な交通環境の整備
⑴ 安全で災害に強い道路の整備
⑵ 人にやさしい道路の整備
⑶ 景観形成に配慮した道路の整備
⑷ 公共交通機関の整備

◆公共交通に関する方針

「環境への負荷が少ない公共交通機関の整備を促進し、利用増進を図ります。」
・エレベーターの設置や安全性の高い整備など、駅舎やその周辺のバリアフリーなどの改善を図ります。
・利便性向上を図るため、市民等の利用実態にあった運行形態（ダイヤなど）を交通事業者に要請します。
・乗り降りしやすい低床バスなどの導入を促進します。
・公共交通ネットワークのあり方を検討します。

③河内長野市公共交通のあり方（平成２０年１０月）

◆基本方針

だれもが円滑に移動できる道路や施設の質的な充実と公共交通ネットワークの確立

◆公共交通の必要性

①公共交通の社会的役割

- 生活交通手段としての役割
- 安全な移動手段としての役割
- 環境問題解決への役割
- 交通渋滞緩和の役割
- 街づくりや健康づくりでの役割

②過度な自動車依存による社会問題の解決

◆今後の公共交通のあり方

- 既存バス路線等の活用と連携の取れた公共交通ネットワークの確立
- 協働による取り組みの推進
- 「本当に必要なもの」を効率的、効果的に実施

◆具体的な取り組み

- 公共交通の需要喚起（公共交通を支える仕組みづくり）
- まちづくりや地域コミュニティと連携した公共交通の確立
- 利用しやすい公共交通環境の確立
- 市が経費負担するバス路線の改善

➢ 公共交通の観点から、施策実施により目指す「元気なまち」のイメージ

上位関連計画等を踏まえて、公共交通の観点から各種施策を実施することにより、目指す“元気なまち”のイメージは以下のとおりです。

“元気なまち”

- 公共交通で移動しやすい都市的魅力がある”まち”
- 日常の移動が確保された安心できる”まち”
- 交流が活発で活気ある”まち”

➢ 現状・問題点と課題を踏まえた基本方針

上位関連計画や公共交通の現状・問題点と課題を踏まえて、基本方針を以下のように設定します。

分類	現状・問題点
公共交通ネットワーク	・公共交通の空白・不便地域が存在
人口	・総人口は平成 12 年をピークに減少 ・将来は人口減少しつつ高齢者人口が増加する見通し
公共交通利用者数	・鉄道、バスとも平成 3 年をピークに減少傾向 ・モックルコミュニティバスは増加傾向となっていたが、近年減少傾向に転じている ・モックルコミュニティバスは、休日は平日に比べて利用者数が少ない ・日野・滝畑コミュニティバスは平成 17 年度以降減少し、平成 22 年度以降は微増と微減を繰り返している ・楠ヶ丘地域の乗合タクシーは前年同月に比べて増加傾向
交通手段	・交通手段分担率は、自動車が増加し、鉄道、バス、徒歩が減少傾向
市民意向	・バスの改善点は、「一日の便数」が最も多くなっており、次いで「運賃」「運行時間帯」「自宅からバス停までの距離」「運行ルート」の順に多い

課題

まちづくりとの連携

・既存の鉄道網や地形を踏まえ、自動車に過度に依存しない施設配置等、まちづくりとの連携が必要

公共交通利用者数の維持・発展

・人口は減少するが、公共交通の利便性を確保するためには、利用者数の維持・発展が必要

・市民や来訪者が利用しやすい公共交通を構築し、発展を図る

公共交通空白・不便地域の解消

・地域が存続するためには、免許や自動車を持たない市民も安心して生活できる移動環境の確保が必要

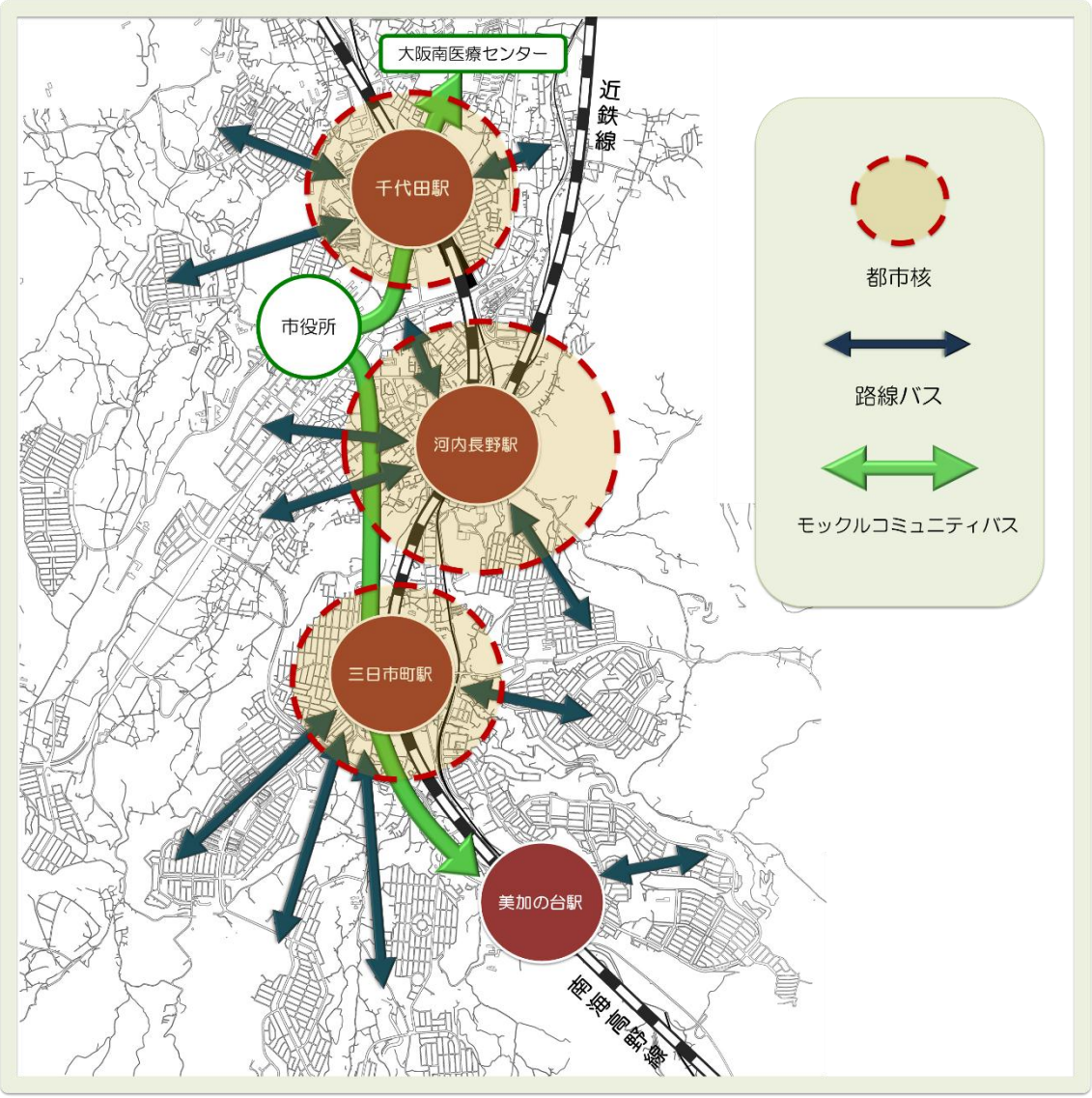
基本方針：持続発展できる公共交通を確保するための取り組み

●少子高齢化等の動向を踏まえた、誰もが利用しやすい公共交通を目指した利用促進
●関係者と協働し、地域が主体となった公共交通等の運行確保
●地域別まちづくりと一体化した公共交通のあり方の検討

公共交通の観点から、施策実施により目指す“元気なまち”のイメージ

●公共交通で移動しやすい都市的魅力がある”まち”
●日常の移動が確保された安心できる”まち”
●交流が活発で活気ある”まち”

➢ 本市の基本とする交通体系



本市の交通体系は、鉄道の主要駅である千代田駅・河内長野駅・三日市町駅周辺エリアを都市計画マスタープランにおいて都市核と位置付けており、この都市核を中心にバス路線網が形成されています。これらの主要駅に美加の台駅を加えた４駅のエリアをモックルコミュニティバスが結んでおり、主に市役所、図書館、病院などの公共施設へのアクセス充実を図っています。

本市の交通体系の基本方針は、現状の都市核に公共交通が集積している交通体系の維持・充実を図り、それぞれの都市核が交通結節点として鉄道・バスなどへ円滑に乗り継ぐことができる交通体系を目指します。

➢ あり方の展開スケジュール

本計画は「河内長野市公共交通のあり方」（平成２０年１０月策定）に基づく展開スケジュール３に位置付けます。

展開１

①公共交通に対する市民意識の向上と PR 等の利用促進施策
（各段階を通じて実施）

②市民主体の取り組みの仕組みづくりと試行的な取り組み（交通空白地域などで実施）

展開２

展開１での成果を踏まえ、他地域への展開を図る

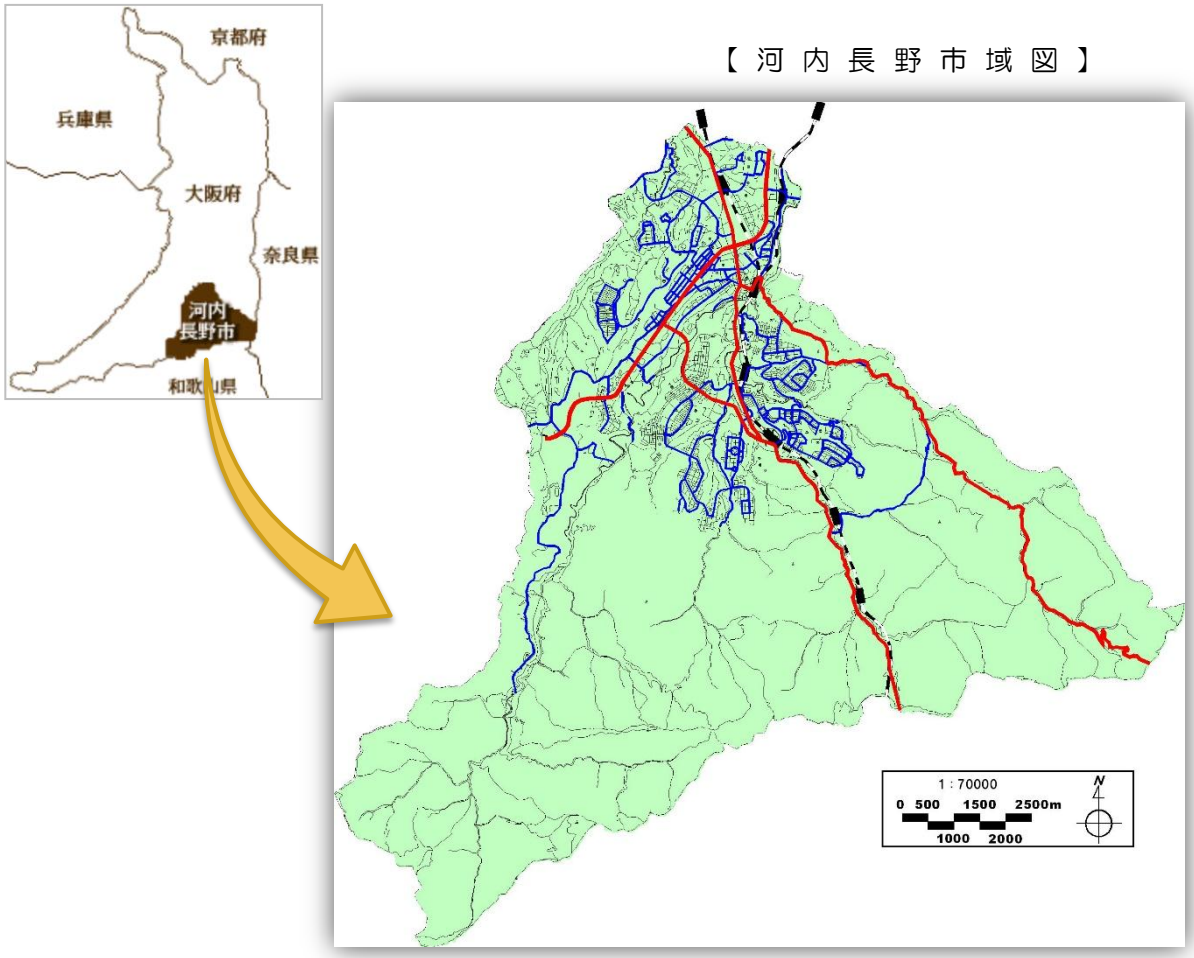
展開３

展開１・２を踏まえた市民意識の高まりにより、
協働による持続可能な公共交通ネットワークの確立

4．第３期形成計画の区域

河内長野市全域

【 河 内 長 野 市 域 図 】



5．第３期形成計画の期間

第３期河内長野市地域公共交通網形成計画の計画期間は、平成２７年度～平成２９年度の３年間とします。

第１期	第２期	第３期河内長野市地域公共交通網形成計画		
２１～２３年度	２４～２６年度	２７年度	２８年度	２９年度

６．第３期形成計画の目標

1　将来のまちづくりを支えるための公共交通サービスの提供

少子高齢化が進展する中、「元気なまち」をつくるには、高齢者、運転免許・自動車を保有しない人等、誰もが安心して生活できる移動環境を構築し、外出の機会を増やすことが必要です。そのため、利用促進、高齢者の移動支援、世代間交流につながる公共交通サービスの提供を目指します。

2　公共交通サービス水準の向上

本計画では、住民が主体的に取り組む要望のある空白・不便地域において、最適な運行形態等を協議して試行運行等を行い、公共交通空白・不便地域を解消することを目指します。

公共交通空白地域は公共交通利用可能エリア外の地域であり、公共交通不便地域は公共交通利用可能エリアですが、駅から比較的近いものの地形や道路条件などからバス路線が無く高齢者の方などの移動が不便な地域です。

なお、上記に加えて「平日に８便以上の公共交通の運行本数がある駅、バス停」と条件を設定していますが、平成２６年時点では、市内の鉄道、バスともこの条件を満たしています。

➢　（山間地を除く）公共交通空白＋不便地域の解消

公共交通空白地域：駅から８００m、バス停から４００m以上のエリア
公共交通不便地域：駅から４００m、バス停から４００m以上のエリア

第3期形成計画のポイント

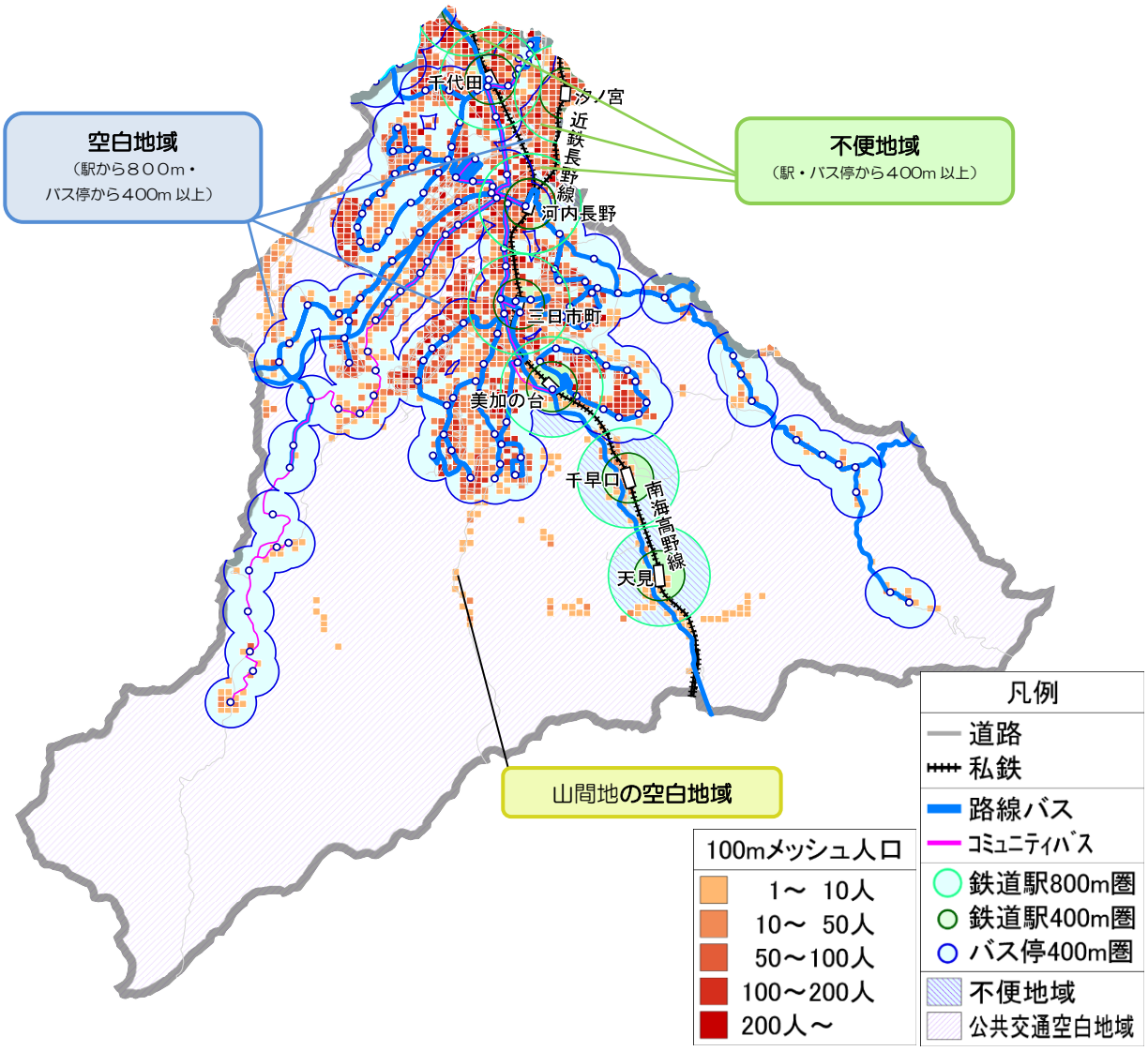
公共交通サービス水準の向上

近年、さらなる高齢化の進展により、鉄道駅やバス停までの徒歩移動が困難となっていると考えられることから、第３期形成計画より、サービス水準のさらなる向上を図るため、解消を図るべき公共交通空白・不便地域のエリア設定を下記のように見直すこととしました。

表　公共交通空白地域、不便地域の変更内容

項目	第1期、第2期連携計画における設定	第3期形成計画における設定
公共交通空白地域	駅から１，０００m、 バス停から５００m以上のエリア	駅から８００m、 バス停から４００m以上のエリア
公共交通不便地域	駅から５００m、 バス停から５００m以上のエリア	駅から４００m、 バス停から４００m以上のエリア

※河内長野市内は鉄道、バスとも平日に８便以上の公共交通の運行本数がある



【公共交通空白・不便地域】

7．事業の概要及び事業の実施主体に関する事項

第3期形成計画のポイント

第3期形成計画における多様な取り組み

方針に沿って目標を達成するために取り組むべき事業について、事業の対象別に取り組みを示します。

元気なまち

- 公共交通で移動しやすい都市的魅力があるまち
- 日常の移動が確保された安心できるまち
- 交流が活発で活気があるまち

将来のまちづくりを支えるための公共交通サービスの提供

利用促進（サービス改善）	公共交通全般	(a)バスマップの作成・配布		P19
		(b)モデル的な取り組みを他地域へ啓発		P20
		(c)公共交通イベント実施の検討 new!		P21
		(d)観光資源と路線バスを活用した取り組みの実施		P22
		(e)商業施設等と連携した特典の提供等の検討		P23
		(f)周辺市との連携による効率的、効果的なバス路線構築の可能性検討 new!		P23
	路線バス	(a)IC カードの普及促進 new!		P23
		(b)乗継運賃値下げの検討 new!		P24
		(c)千代田線における上限200円運賃の試行運行継続と、他路線への展開を検討		P24
		(d)バスロケーションシステム導入の検討 new!		P25
		(e)携帯電話等に対応した時刻表、ルート図などの提供を検討 new!		P25
		(f)深夜バスの運行を検討		P26
		(g)路線バスの運行を検討		P26
	モックルコミュニティバス	(a)車内でのPR		P27
		(b)市役所、バス停周辺施設、店舗等でのPR		P27
		(c)上限200円運賃の本格運行への移行を検討		P28
	日野・滝畑コミュニティバス	沿線観光施設、商業施設等と連携・タイアップによる割引特典等による利用促進の検討		P29
高齢者支援	公共交通全般	ノンステップバス導入の推進		P30
	路線バス	フリー乗降導入指針の作成及びフリー乗降の展開		P31
世代間交流による外出機会の創出	モックルコミュニティバス	同伴者割引拡大の検討		P32
公共交通サービス水準の向上	公共交通・空白・不便地域の解消	地域に合った公共交通の検討	(a)地域主体の公共交通の運行継続条件の検討 new!	P33
			(b)地域に合った公共交通の試行運行を検討	P34

将来のまちづくりを支えるための公共交通サービスの提供

利用促進（サービス改善）

公共交通全般

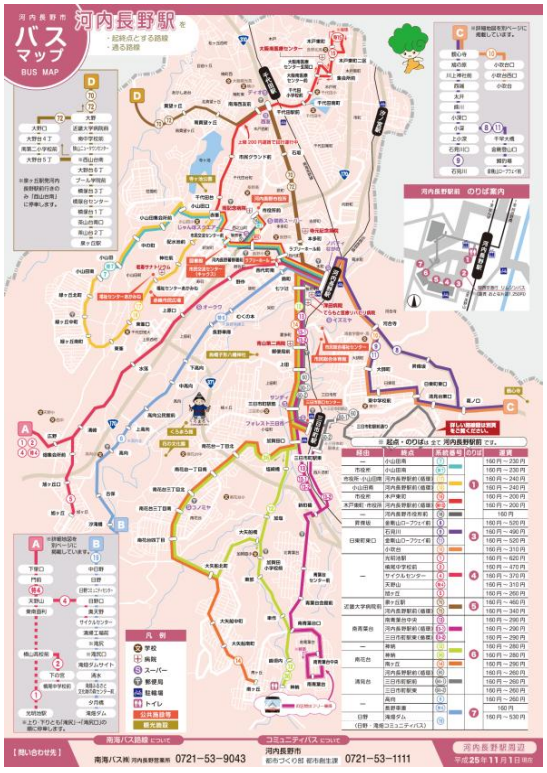
（a）バスマップの作成・配布

どのバスへ乗ればどこへ行けるのかがわかりにくいことから、系統別のバスルートが判別できるバスマップを作成・配布します。

- 地図ベースで系統別のバスルートが判別できるバスマップを作成し、市内各所や転入者、観光来訪者等に配布

平成 25 年に地図ベースでバスの系統が把握できるマップを作成し、配布しました。これらの内容をさらに拡充したバスマップを作成し、配布します。

〔河内長野市で平成 25 年に配布したバスマップの例〕
地図ベースに発着する鉄道駅別に、系統別のルートがわかるバスマップと、バスから鉄道へ乗り継ぎ便利な鉄道駅のダイヤを配布。



出典：河内長野市HP

〈バスマップ利用者の声〉

「使い勝手が良くて、大変便利です。」（観光ボランティアの方）

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市、南海バス

公共交通全般

（b）モデル的な取り組みを他地域へ啓発

地域主体の取り組みにより、乗合タクシー等の新規運行や公共交通の利便性向上、利用促進事例として成功している地域をモデルとして取り上げ、他地域へ啓発を行います。

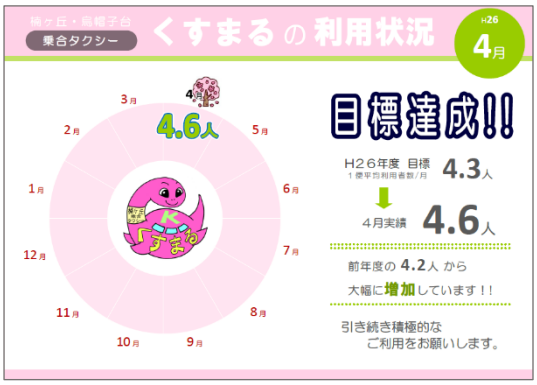
- 楠ヶ丘地域等の成功モデルにおける取り組みのメリットや利用者の声をＰＲし、実施方法等を他地域へ継承

成功モデルや利用者の声により、他地域でも取り組み意欲が向上して、波及していく可能性があることから、楠ヶ丘地域等の取り組み、メリット等をPRし、他地域への展開を図ります。

〔楠ヶ丘地域乗合タクシーの事例〕
公共交通不便地域を解消するため、平成２３年１１月１日から楠ヶ丘地域において乗合タクシーを運行。地域でＰＲを実施し、利用者数は増加傾向。

〈楠ヶ丘地域乗合タクシー実施状況〉

〈くすまるの目標達成状況のＰＲ〉



〈地域主体のＰＲ実施状況〉

〈楠ヶ丘地域乗合タクシーの利用者の声〉

- くすまるが利用できるようになり、大変ありがたく思っております。
- 駅から楠ヶ丘の上り坂で、荷物の重いとき、体調が悪いときなど助かっております。
- 母親が、仕事・買物・通院などで利用して助かっているので、子どもとしても喜んでいます。
- 40 年来楠ヶ丘に住んでいるが、くすまるタクシーは大きな成果の一つ。くすまるタクシーで快活に利用できることは残りの人生の大切な楽しい時間のひとときです。

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議

公共交通全般

（c）公共交通イベント実施の検討

多くの方に公共交通に慣れ親しんで頂くために、バスの車両を活用したパフォーマンスや、交通事業者が開催するバスイベント、イベント時のバス出展によるＰＲなどの実施を検討します。

● バス車両を活用したイベント開催や、各種イベント時にバス車両を展示する等ＰＲ

日ごろ、バスに乗車していない人も、イベントだとバスに触れやすく、親しみやすいと考えられます。そのため、バス車両を活用したパフォーマンスや、イベント時に新型車両等を展示してPRする等のイベント実施を検討し、まずバスを身近に感じて頂き、利用者増加を図ります。

〔東舞鶴高校、バスまつり、イベント展示の事例〕
東舞鶴高校では書道部と連携してバス車両を活用したイベントを実施。
バス事業者がバスを活用して洗車や撮影会等のバスまつりを開催し、最寄り駅から会場までバスを運行。

〈バスの車体を使った東舞鶴高書道部のパフォーマンス〉

出典：舞鶴市民新聞社HP

〈バスイベントの開催例（阪急バス）〉

特におすすめなのが、子供用制服を着て
運転席での記念撮影！
これはここでしか味わえないですね。

日時：6月1日（日）9：30～16：00
場所：阪急阪神エムテック本社工場
（JR茨木駅と阪急茨木市駅、石橋駅と千里中央駅からバスが出ています）

出典：阪急バスHP

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市、交通事業者等

公共交通全般

（d）観光資源と路線バスを活用した取り組みの実施

河内長野市内は観光資源が点在しており、周遊するには移動が必要となります。そのため、観光資源と路線バスを活用した取り組みを拡充し、バスのさらなる利用促進を図ります。

● 路線バスによる観光資源へのアクセス方法やモデルルートを記載したチラシを配布

バスで観光資源にアクセスする場合は、バスの運行ルートや運行時間に合わせた行動が必要となるため、バスによるアクセス方法をPRし、市内の観光資源を活用して利用促進を図ります。

〔路線バスによる観光モデルルートのＰＲ事例〕
奈良では木簡型フリー乗車券で乗車できるバスで行ける施設と所要時間、バスの運行頻度を記載したチラシを配布。
熊谷市は観光モデルコースに各施設の所要時間を踏まえてバスのダイヤを記載。

〈企画乗車券とセットで配布された観光施設の行き方を掲載したチラシ〉

提供：奈良中心市街地公共交通活性化協議会

〈観光施設のモデルコースと各施設の最寄バス停の出発時刻を掲載したチラシ〉

出典：熊谷市HP

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市、交通事業者

公共交通全般

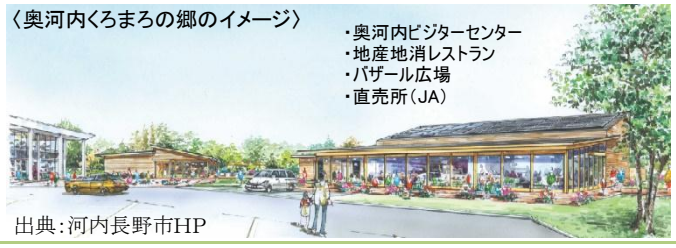
（e）商業施設等と連携した特典の提供等の検討

奥河内くろまろの郷等、バス路線沿線の商業施設などで、公共交通の利用者に対して特典の提供（商品・飲食代の割引など）の実施可能性がある店舗等を把握し、連携に向けて検討を行います。

● 公共交通利用による買い物の魅力向上のため、バス路線沿線の商業施設との連携を検討

商業施設はクルマ利用者に対しては駐車場を用意している一方、公共交通利用者にはメリットがないため、買い物料金を割り引くなどの優待による利用促進を図るため、商業施設等との連携に向けて検討します。

〈奥河内くろまろの郷のイメージ〉



出典：河内長野市HP

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市、交通事業者

（f）周辺市との連携による効率的、効果的なバス路線構築の可能性検討

路線バスは河内長野市内だけではなく、市の境界を超えて周辺市域へ発着している路線があるため、周辺市と連携し、効率的、効果的なバス路線構築の可能性を検討します。

● 周辺市との連携による効率的、効果的なバス路線構築の可能性検討

住宅地と鉄道駅の配置、主要施設の配置等によって、市域を越えて移動ニーズが発生する場合があるため、周辺市と連携することにより、ニーズに的確に対応した効率的、効果的なバス路線構築の可能性を検討します。

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、南海バス

路線バス

（a）IC カードの普及促進

平成２７年度より河内長野エリアの路線バス全線でＩＣカードシステムの利用が開始されることから、ＩＣカードの普及促進を図り、料金支払い時の利便性向上を図ります。

● ＩＣカードシステムの普及促進を図り、料金支払い時の利便性を向上

ICカードの導入が進み、河内長野エリアにおいても平成27年度より利用開始されることとなっています。しかし、現在はICカードをまだ持っていない人も存在していると想定されるため、ICカードの普及促進を図り、料金支払い時の利便性向上やバス降車時にかかる時間の短縮等を図ります。

また、ICカードの場合は弾力的な料金施策も可能となるため、併せて料金割引施策も検討します。

〈ＩＣカードのイメージ〉

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、南海バス

路線バス

（b）乗継運賃引き下げの検討

乗継による料金抵抗を下げてシームレスな乗継を図るため、乗継運賃の引き下げを検討します。

● 路線バスとコミバス、鉄道等を乗継ぐ際の運賃引き下げを検討

現在は路線バスから路線バスやコミバス、鉄道等へ乗り継ぐと、それぞれ初乗り運賃がかかります。そこで、平成27年度にICカードを導入すると、柔軟な料金システムが適用可能になることを踏まえ、シームレスな乗継を図るため、乗継運賃の引き下げを検討します。

〔路線バスから路線バスへの乗継割引のＰＲ事例〕
神戸市では２０１４年４月よりＩＣカードを利用した場合の乗継割引を実施しており、ホームページや車内広告等でＰＲ。

〈神戸市の乗継割引チラシ〉

出典：神戸市HP

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市、交通事業者

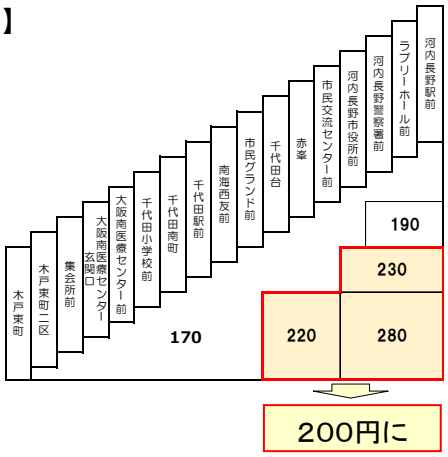
（c）千代田線における上限 200 円運賃の試行運行継続と、他路線への展開を検討

千代田線における上限２００円運賃の試行を継続するとともに、上限２００円運賃の他路線への展開を検討します。

● 運賃の上限を設定して割り引くことにより、バス利用を促進

路線バスのうち、千代田線（河内長野駅～木戸東町）は大阪南医療センター前まで乗車すると運賃が270円でしたが、モックルコミュニティバスと競合するため、同様に上限200円運賃を試行しました。この試行を継続するとともに、他路線への展開を検討し、利用促進を図ります。

【運賃】



実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、南海バス

路線バス

（d）バスロケーションシステム導入の検討

バスは道路の交通状況等によって遅延が発生し、利用者にとってはバスの現在位置がわからないことで確実に乗車できるか不安になるケースがあります。そのため、バスの位置情報を提供し、運行状況に応じた行動選択が可能となるよう、利便性向上を図ります。

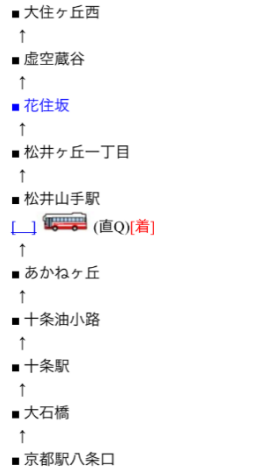
● バスロケーションシステム導入の検討

情報化が進展したことにより、パソコンや携帯でHP等のサイトにアクセスして情報を得ることができるようになりました。これにより、各バス停ではなくサイトでバスの現在地を提供する簡易なバスロケーションシステムが構築され、導入しやすくなりました。こうした動向を踏まえて、バス利用者の利便性向上を図るため、バスロケーションシステムの導入を検討します。

〔運行情報サイトの例〕
京阪バスではバスの運行情報サイトを開設し、バスの現在地や時刻表等の情報を提供しています。

〈バスロケの PR チラシ〉

〈京阪バスの運行情報サイト〉



出典：京阪バスHP

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市、南海バス

（e）携帯電話等に対応した時刻表、ルート図などの提供を検討

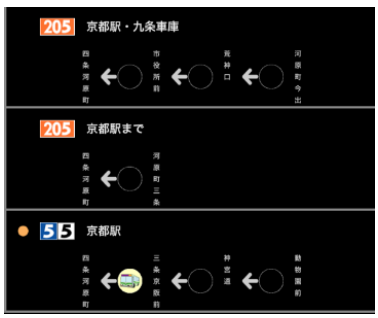
携帯電話、スマートフォンの普及や情報化の進展により、携帯電話でどこにいても時刻表やルート図が閲覧できるようになっているため、携帯電話に対応した時刻表やルート図等の情報提供を検討します。

● 携帯電話に対応した時刻表、ルート図などの情報提供を検討

これまでもパソコンサイトでは時刻表やルート図などの情報を提供してきましたが、携帯電話やスマートフォンの画面サイズでも見やすい情報に変えて提供します。これにより、携帯電話を活用して、どこにいてもバスの情報が入手でき、利用者の利便性向上が図られます。

〔携帯電話対応サイトの例〕
京都市では、携帯電話に対応したバス時刻表や位置情報等を提供しています。

〈携帯電話版バス位置情報〉



〈携帯電話版バス時刻表〉

出典：京都市HP

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市、南海バス

路線バス

（f）深夜バスの運行を検討

深夜バスの新たな路線の導入を検討します。

● 深夜バスの運行を検討

バスの改善点として「運行時間帯」といった要望があることから、深夜バスの運行を検討します。

現在、運行している深夜バス:
三日市町駅前発　南ヶ丘行き
三日市町駅東発　清見台1丁目行き
河内長野駅発　旭ヶ丘行き※
美加の台発　美加の台　左回り※
※平成 24 年 10 月より運行開始

〈河内長野駅発　旭ヶ丘行きの深夜バス〉

出典:南海バスHP

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、南海バス

（g）路線バスの運行を検討

新規路線導入の可能性を検討します。

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、南海バス

モックルコミュニティバス

（a）車内でのＰＲ

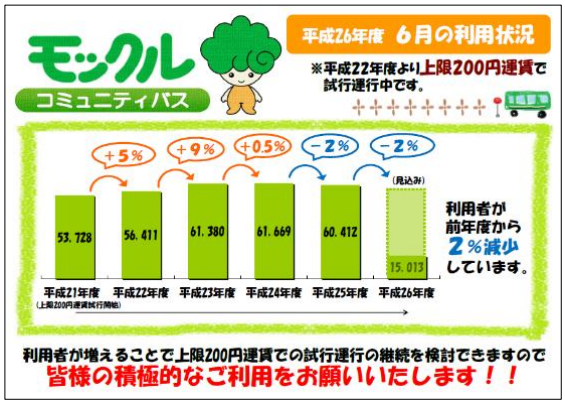
バス車内のスペースを利用してモックルコミュニティバスの利用促進を図るためのＰＲを実施するとともに、市内のイベント案内を掲示し、イベント来訪時のバスの利用促進を図ります。

- モックルコミュニティバスの利用者数や取り組み状況、利用を呼びかけるポスターや、市内のイベント案内を車内に掲示してＰＲ

  モックルコミュニティバスを車内でPRすることにより、利用頻度の増加が期待されます。また、路線バスなどの車内でもPRすることにより、認知度の向上や新規需要の増加が期待されます。

  また、車内でイベント案内を掲示することにより、イベントに来訪する際の移動手段のバスへの転換や、バスを利用してイベントに来訪する新規需要によるバスの利用者増が期待されます。

〈利用促進ポスター例〉



実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市、南海バス

（b）市役所、バス停周辺施設、店舗等でのＰＲ

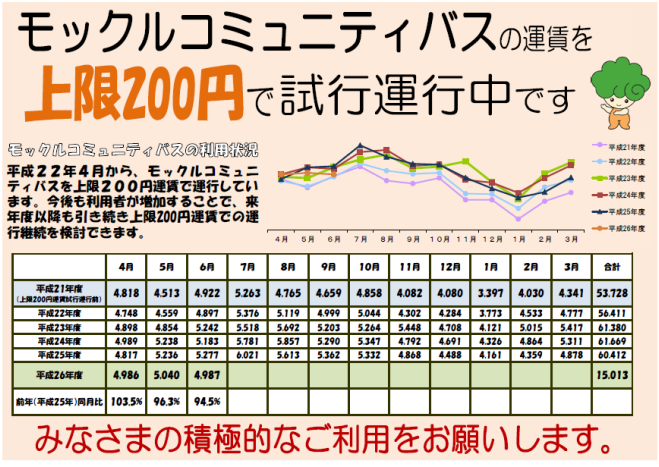
モックルコミュニティバスが運行しているバス停周辺の施設、店舗等でコミュニティバスの利用促進を図るためのＰＲを実施します。

- モックルコミュニティバスの利用者数や取り組み状況、利用を呼びかけるポスターをモックルコミュニティバスが運行しているバス停周辺の施設、店舗等で掲示してＰＲ

  バス停周辺施設、店舗等でPRすることにより、認知度の向上や新規需要の増加が期待されます。

〔河内長野市役所や福岡県の事例〕
河内長野市役所、福岡県ではバス利用を呼びかけるチラシ配布やポスター掲示によるＰＲを実

〈市役所でのモックルコミュニティバスのＰＲ例〉



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成21年度（上限200円運賃試行運行前）	4.818	4.513	4.922	5.263	4.765	4.659	4.858	4.082	4.080	3.397	4.030	4.341	53.728
平成22年度	4.748	4.559	4.897	5.376	5.119	4.999	5.044	4.302	4.284	3.773	4.533	4.777	56.411
平成23年度	4.898	4.854	5.242	5.518	5.692	5.203	5.264	5.448	4.708	4.121	5.015	5.417	61.380
平成24年度	4.989	5.238	5.183	5.781	5.857	5.290	5.347	4.792	4.691	4.326	4.864	5.311	61.669
平成25年度	4.817	5.236	5.277	6.021	5.613	5.362	5.332	4.868	4.488	4.161	4.359	4.878	60.412
平成26年度	4.986	5.040	4.987										15.013
前年(平成25年)同月比	103.5%	96.3%	94.5%										

〈福岡県の例〉

出典：福岡県HP（路線バス利用促進のための福岡県内一斉行動　啓発チラシ）

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市

モックルコミュニティバス

（c）上限２００円運賃の本格運行への移行を検討

平成２２年度から実施しているモックルコミュニティバス上限２００円運賃の試行運行を本格運行への移行を検討します。

● モックルコミュニティバス上限２００円運賃の試行運行を本格運行への移行を検討

平成22年度から実施している上限200円運賃の試行運行以降、利用者が増加傾向になっています。しかし、河内長野市地域公共交通会議負担金は平成25年度で約130万円要していることから、さらなる利用者増を図り、本格運行への移行を検討し、上限200円運賃実施に伴う経費負担0を目指します。

〈モックルコミュニティバスの利用状況と目標〉

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度（見込み値）	参考目標値
利用者数	53,728 人	56,411 人	61,380 人	61,669 人	60,412 人	59,143 人	67,900 人
利用者数前年比	2%増	5%増	9%増	1%増	2%減	3%減	10.6%増
運賃収入（千円）	10,109	8,588	9,302	9,149	9,000		10,321
運行経費（千円）	26,731	26,806	26,943	27,178	27,168		27,178
市負担金（千円） ※運行経費負担	16,622	16,622	16,622	16,857	16,845		16,857
河内長野市地域公共交通会議負担金（千円） ※上限２００円運賃実施に伴う経費負担		1,596	1,019	1,172	1,322		0

試行運行　さらなる利用者増を図り、上限 200 円運賃実施に伴う市負担金を削減します。

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議

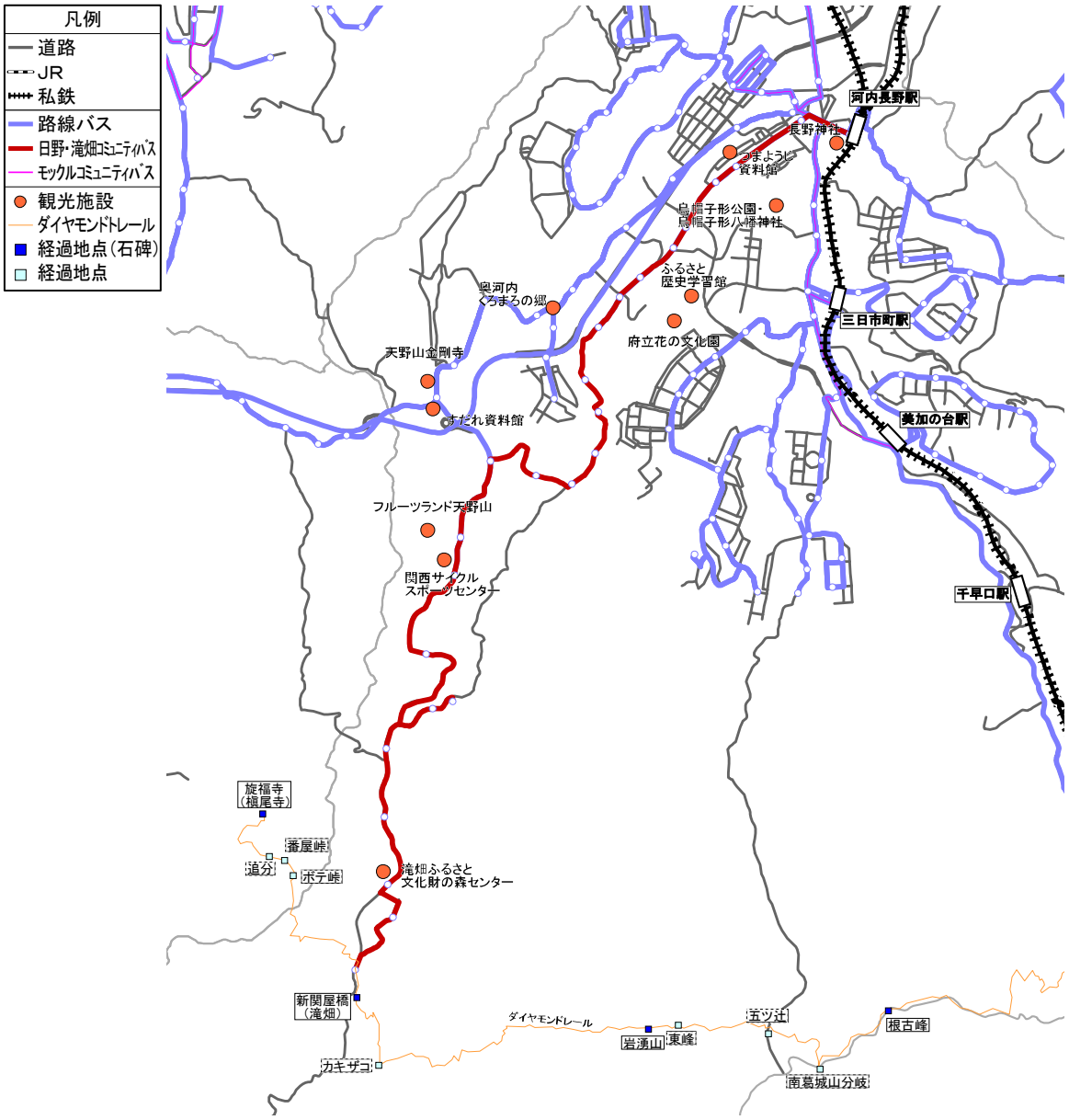
日野・滝畑コミュニティバス

沿線観光施設、商業施設等と連携・タイアップによる割引特典等による利用促進の検討

沿線の施設や店舗等において、バス利用者に対して入場料や買い物金額の割引、粗品進呈等のサービス実施を検討します。

- 日野・滝畑コミュニティバスの沿線にある、奥河内くろまろの郷（平成 26 年秋オープン予定）、花の文化園、関西サイクルスポーツセンター、湖畔観光、バーベキュー等の施設と連携し、バス利用者に対するサービス実施を検討

〈日野・滝畑コミュニティバスと沿線施設〉



実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市、交通事業者

利用促進（サービス改善）

高齢者支援

公共交通全般

ノンステップバス導入の推進

ノンステップバスの導入を推進し、誰もが利用しやすいバスの実現に向けて取り組み、利用促進を図ります。

- ノンステップバス導入の推進

  ステップがあるバスは高齢者や障がい者等は乗車しにくいため、誰もが利用しやすいノンステップバスの導入を進めます。

出典：南海バスHP

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市、南海バス

路線バス

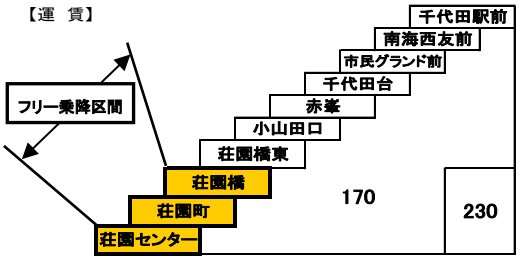
フリー乗降導入指針の作成及びフリー乗降の展開

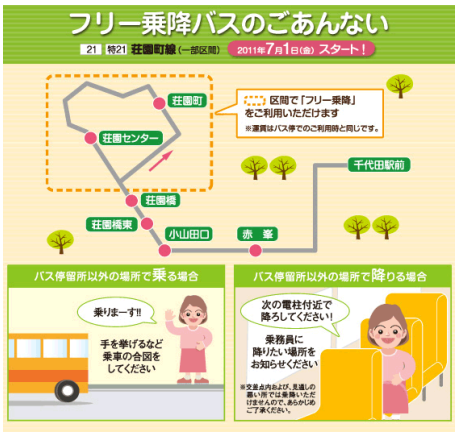
これまで荘園町や南青葉台でフリー乗降を展開してきました。そのプロセスや導入の際に配慮すべき事項等を指針として取りまとめ、適合性が高い地区において展開します。

● これまでの導入実績を踏まえて指針を作成し、フリー乗降を展開

市内のバス停は距離間隔が空いている箇所があり、乗降箇所が増えることによって利便性が向上し、バスの利用が促進される可能性があります。そこで、これまでの導入実績を元に指針を作成し、適合性が高い地区においてフリー乗降のさらなる展開を図ります。

〔荘園町フリー乗降区間の事例〕
荘園町では「自宅からバス停まで遠くて歩くのが大変」「タクシーのように玄関先で降ろしてもらいたい」といった声を受けて、フリー乗降区間を設定。

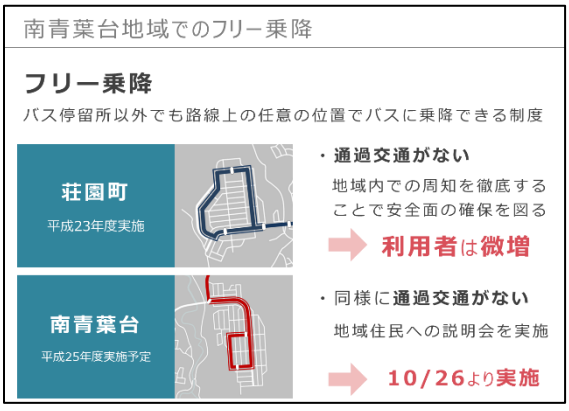




出典：南海バスHP

〈荘園町フリー乗降利用者の声〉
「自宅近くで自由に降りられるようになって良かった。」

〔南青葉台フリー乗降区間の事例〕
荘園町で好評だったことから、同様に通過交通が少ない南青葉台でも地域住民への説明会を実施したうえで、フリー乗降を導入。



実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、南海バス

高齢者支援

世代間交流による外出機会の創出

モックルコミュニティバス

同伴者割引拡大の検討

利用者の少ない日曜日に限定して利用者１人につき同伴者１人の運賃を無料としていましたが、割引実施日の拡大を検討します。

● 日曜日に限定していた同伴者割引の実施日拡大を検討

日曜日は利用者が少ないことから、日曜日に限定して利用者１人につき同伴者1人の運賃を無料とした結果、利用者数が増加傾向となりました。今後は、こうした取り組みにより外出機会が増加し、交流が活発化して地域が活性化することを期待して、割引実施日の拡大を検討します。

〈同伴者割引のＰＲチラシ〉

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議

公共交通サービス水準の向上

公共交通・空白・不便地域の解消

地域に合った公共交通の検討

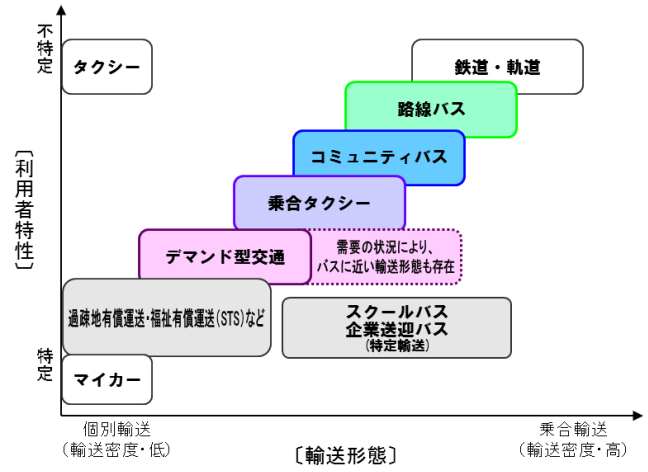
（a）地域主体の公共交通の運行継続条件の検討

利用者数が少なく収支率が低い公共交通は運行継続が不可能となることから、継続していくためには一定の利用者数や収益の確保が必要となります。今後、地域の特性や利用状況に応じた運行形態や、公共交通として運行を継続する際の条件を検討します。

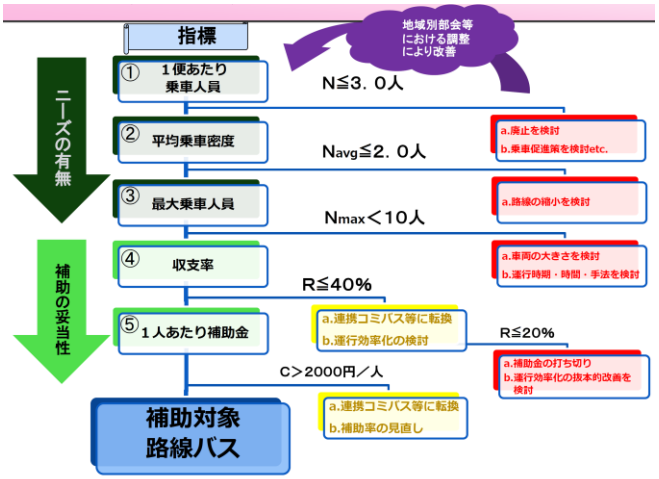
- 地域に合った、地域主体の公共交通の運行継続条件を検討

路線バスは同一時間に同一方向への移動ニーズに応じて大量輸送を図るものですが、移動時間帯や方向が多様になったり、輸送量が少なくなったりすると、需要と供給のバランスが図れなくなって収支率が低くなり、運行継続が困難となります。今後、運行を継続していく際の目標という意味でも運行継続条件を定め、行政、交通事業者、地域が一体となって運行継続を図ることが望ましいと考えられることから、運行継続条件を検討します。

〈輸送密度と利用者特性からみた類型〉



〈奈良県の補助対象路線バス（路線バスとして維持）の基準〉



出典：奈良県HP

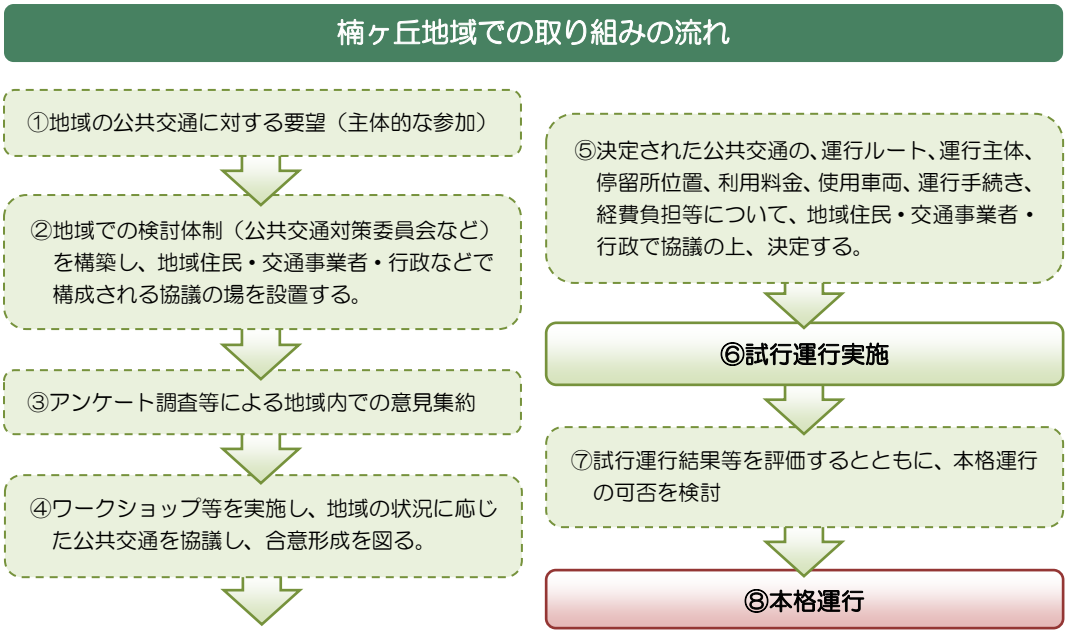
実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議、河内長野市

地域に合った公共交通の検討

（b）地域に合った公共交通の試行運行を検討

公共交通空白・不便地域において、地域の利便性向上及び利用促進を図るため、地域に合った公共交通についての協議を進め、試行運行を検討します。

試行運行から本格運行へ移行した楠ヶ丘地域での取り組みをモデルとし、住民が主体的に取り組む要望のある地域において、地域に合った公共交通について協議を進め、地域主体の公共交通の試行運行を検討します。



（例）公共交通空白・不便地域において、第２期連携計画（平成２４年度～平成２６年度）での結果を踏まえ、引き続き地域に合った公共交通について協議を行います。

実施予定時期	平成２７年度～
事業主体	河内長野市地域公共交通会議

8．おわりに

これまで、河内長野市では市民や来訪者が利用しやすい公共交通の構築や、それによる地域の交流、活性化を目指して、地域と連携しながら公共交通の維持・発展に取り組んできました。

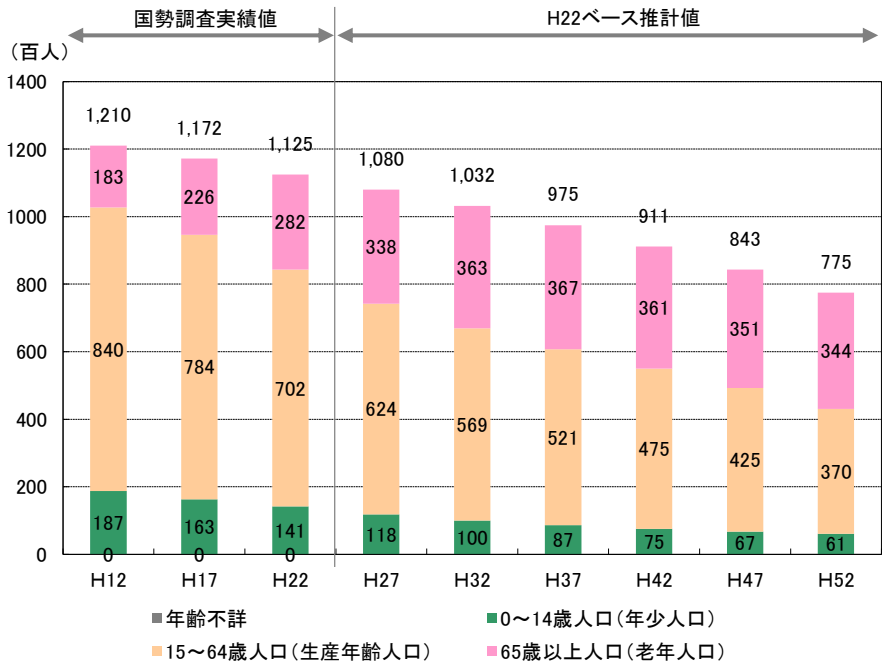
バスマップの配布、モックルコミュニティバスの上限２００円運賃や同伴者割引、楠ヶ丘地域における乗合タクシー運行や公共交通空白・不便地域との勉強会等、様々な取り組みによりモックルコミュニティバスや乗合タクシーの利用者数は増加傾向となっています。

一方で、路線バスの利用者数は減少傾向となっており、また、人口問題研究所により推計された将来人口は、高齢者は微増する一方生産年齢人口や年少人口が大幅に減少する見通しとなっています。人口が減少すると、それに伴って公共交通の利用者数も減少することが想定され、利便性が高い公共交通やバスネットワークの維持・発展が困難になると考えられます。

このような状況を踏まえて、河内長野市としての将来都市像や、それを実現するための政策を検討し、自動車に過度に依存しない、誰もが安心して生活するとともに来訪者も多く訪れ、活気あるまちづくりを目指す必要があります。こうした取り組みは交通だけではなく、総合計画や都市計画マスタープランで位置づける必要があることから、次期計画策定時に分野横断的に連携する必要があります。

また、今回の地域公共交通網形成計画は目標年次が３年間と短期的に実現可能な取り組みを検討したものですが、目指すべき将来像やまちづくり政策が明確になった後は、それらを反映した公共交通の長期的な計画が必要になると考えられます。

河内長野市の人口推移



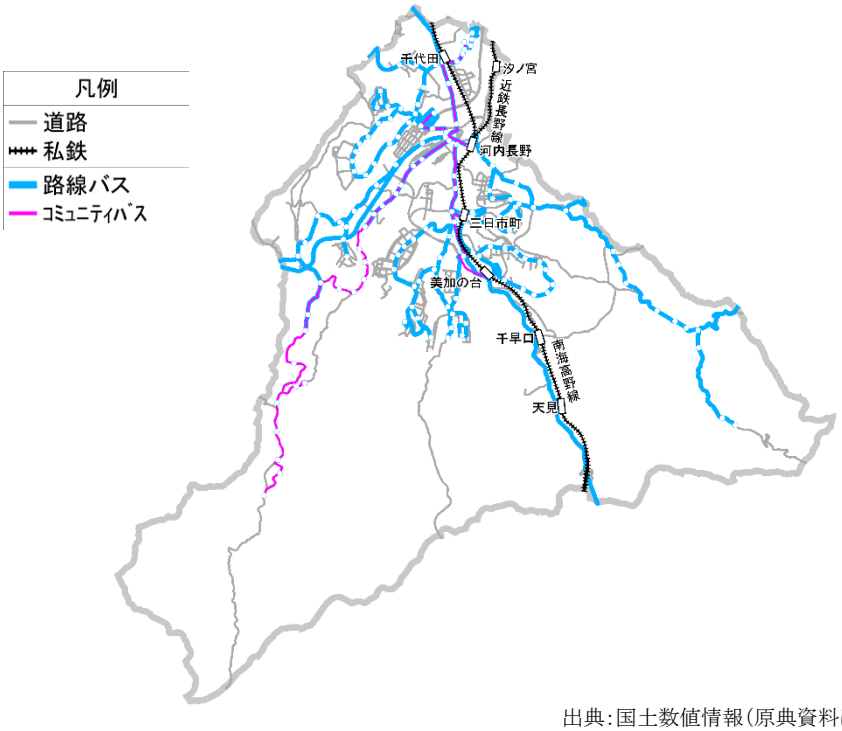
資料：国立社会保障・人口問題研究所

参考データ集：河内長野市における公共交通をとりまく現状

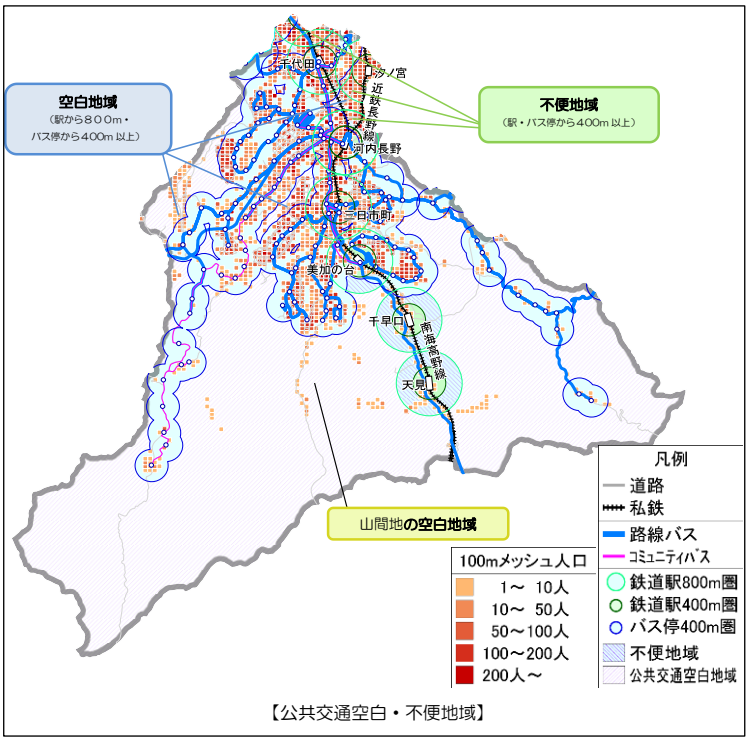
➢　河内長野市における公共交通をとりまく現状

①河内長野市における公共交通ネットワークの状況

河内長野市内では鉄道は南海電気鉄道と近畿日本鉄道が運行しており、駅と郊外をつなぐように放射状にバス（南海バス）が運行されていますが、一部公共交通の空白・不便地域が存在しています。



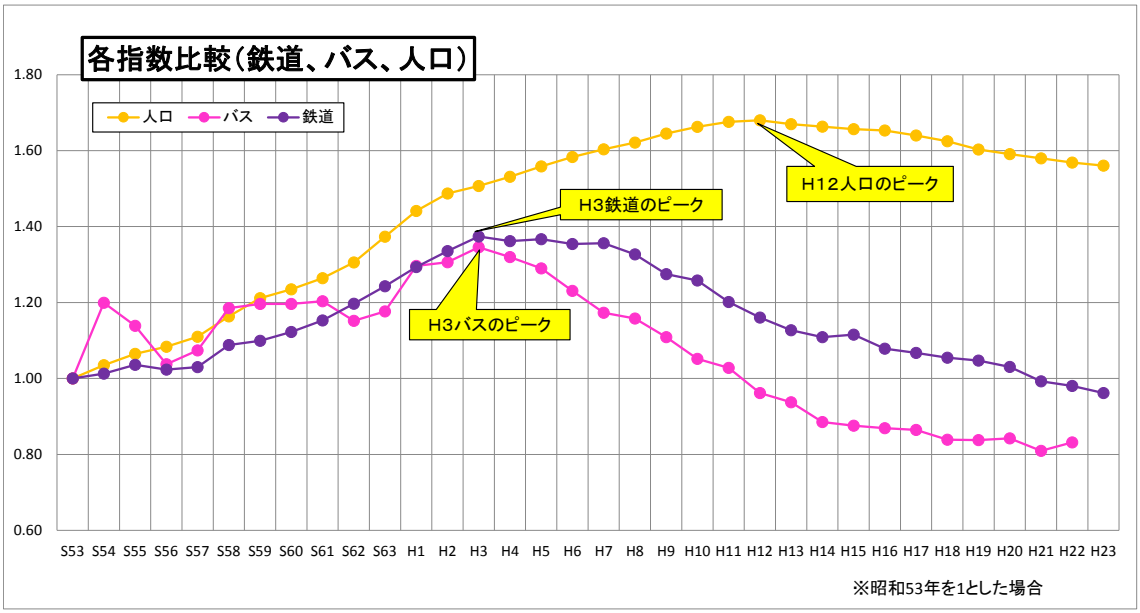
出典：国土数値情報（原典資料は平成22年）



【公共交通空白・不便地域】

②人口、公共交通利用者数の推移

河内長野市の人口は平成１２年以降減少しており、鉄道とバスの利用者は平成３年以降減少傾向となっています。

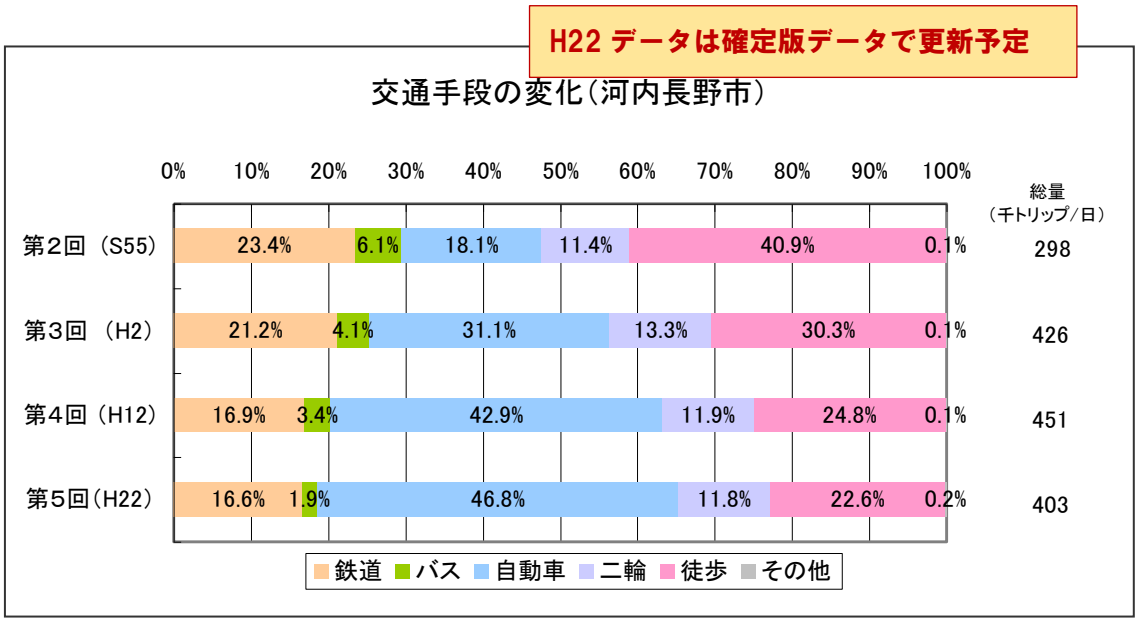


※人口、鉄道は河内長野市統計書

出典：河内長野市公共交通のあり方

③交通手段分担率の変化

自動車は増加傾向にある一方、鉄道、バスの分担率は減少しています。

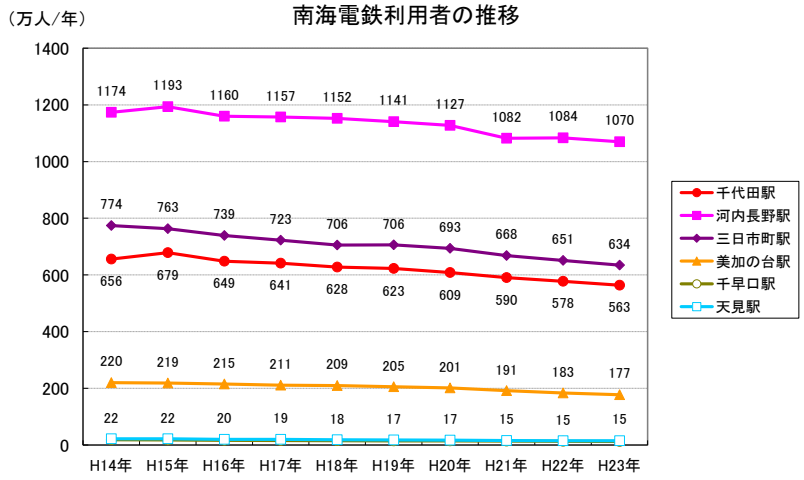


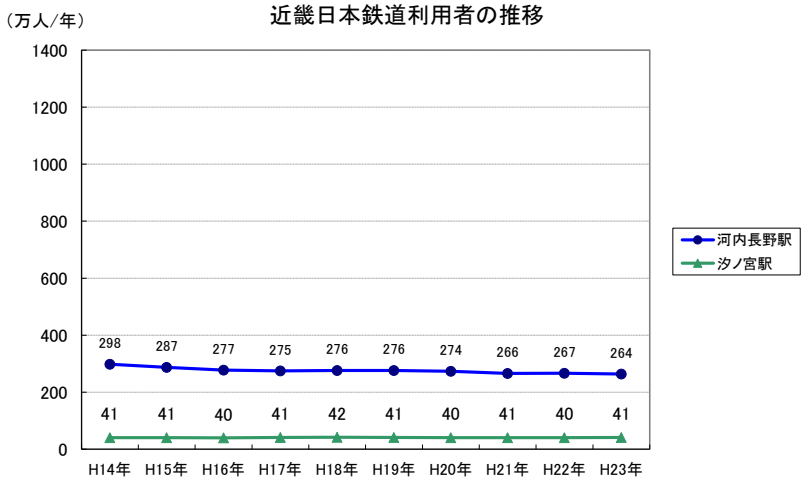
資料：第2～4回は河内長野市公共交通のあり方、第5回は近畿圏パーソントリップ調査速報版（大阪府HP）

④駅別の鉄道、バス利用者数の推移

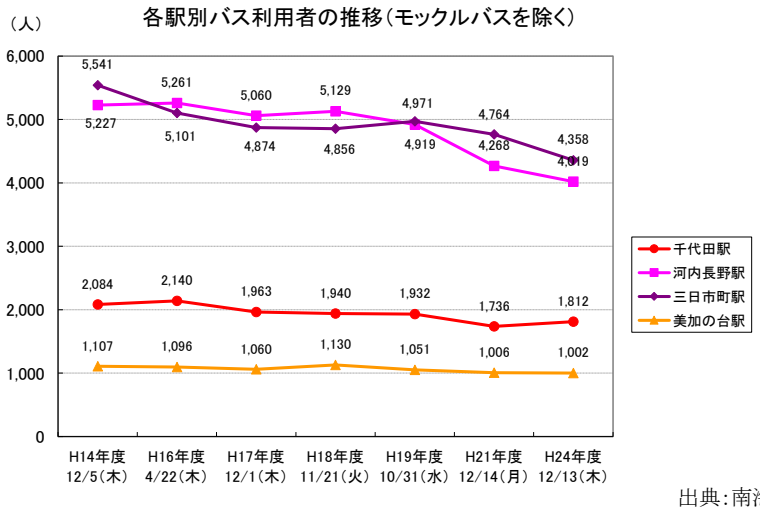
駅別の鉄道利用者数は南海河内長野駅が最も多くなっていますが、平成１４年以降減少傾向となっています。また、三日市町駅、千代田駅、近鉄河内長野駅も減少傾向となっています。

バスの利用者数も全体的に減少傾向ですが、特に河内長野駅は平成１９年度以降、減少しています。





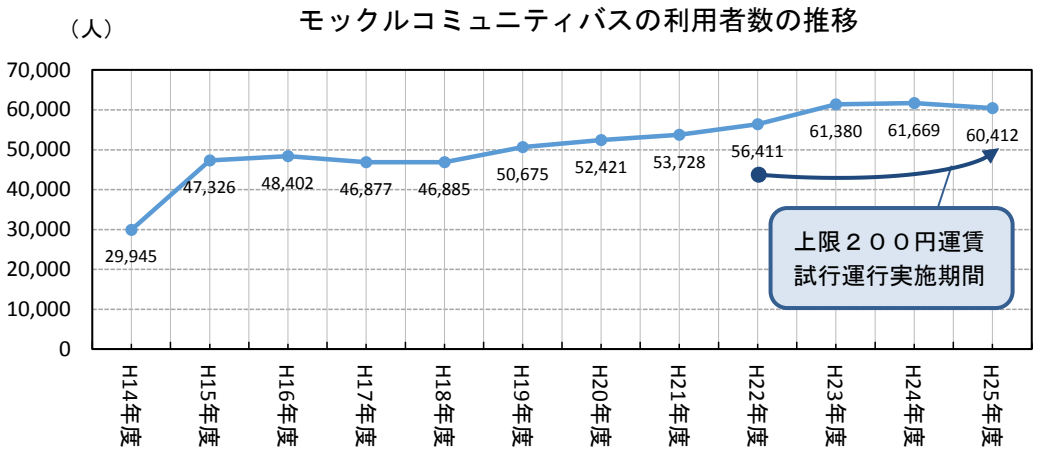
出典:河内長野市統計書



出典:南海バス

⑤モックルコミュニティバスの利用者数の推移

モックルコミュニティバスでは、平成２２年４月より上限２００円運賃の試行運行を実施し、利用者数は増加していましたが、平成２４年から２５年にかけては微減しています。

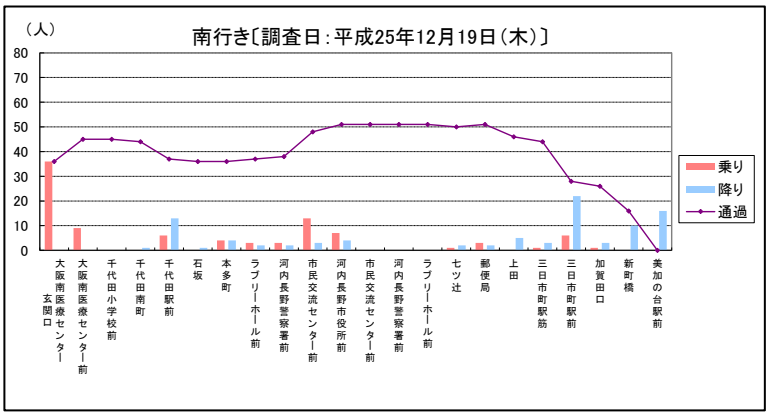


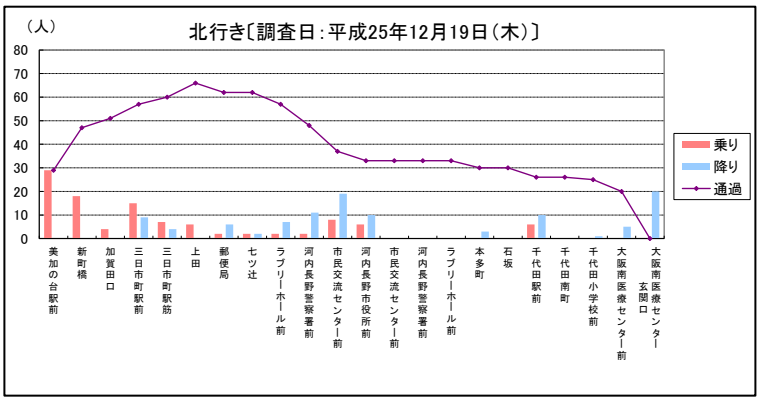
資料:河内長野市調べ

⑥モックルコミュニティバスの利用状況〔平日・休日別〕

モックルコミュニティバスは南行きは大阪南医療センター玄関口や市民交流センターで乗車が比較的多く、三日市町駅や美加の台駅、千代田駅といった鉄道駅で降車が多くなっています。また、北行きは美加の台駅、新町橋、三日市町駅での乗車が多く、大阪南医療センター玄関口、市民交流センターでの降車が多くなっています。

【平日】

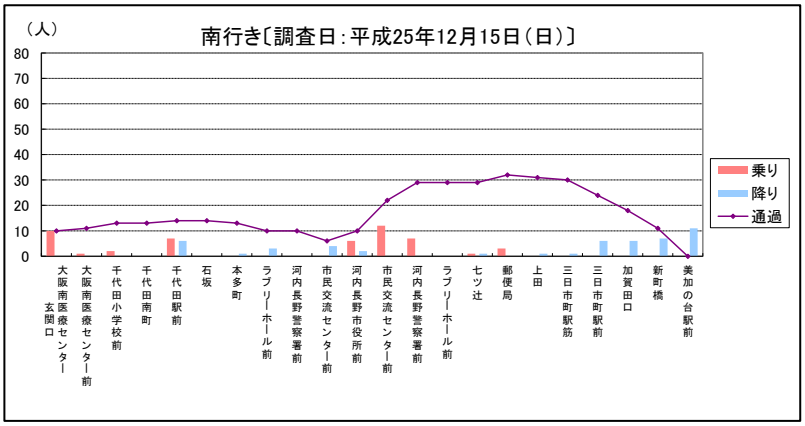


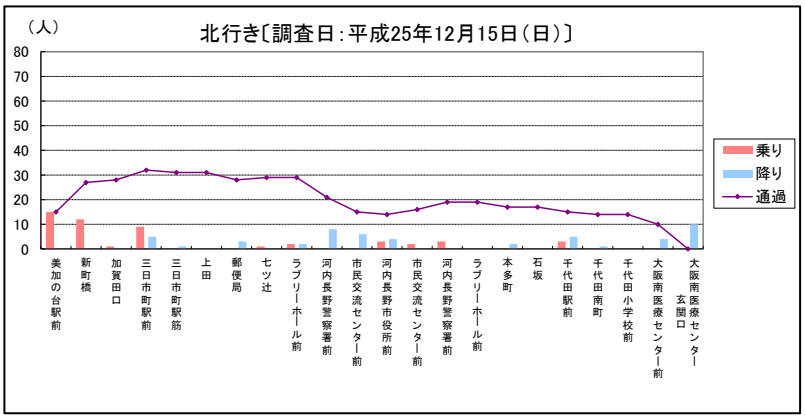


資料:河内長野市調べ

休日は平日に比べて乗降人数が少なく、南行きは市民交流センターや大阪南医療センター玄関口での乗車が多く、美加の台駅での降車が多くなっています。また、北行きは美加の台駅や新町橋での乗車が多く、大阪南医療センター玄関口での降車が多くなっています。

【休日】

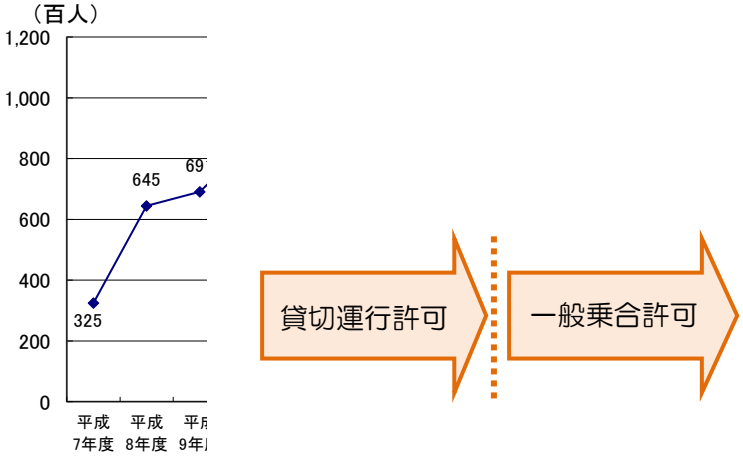




資料：河内長野市調べ

⑦日野・滝畑コミュニティバスの利用者数の推移

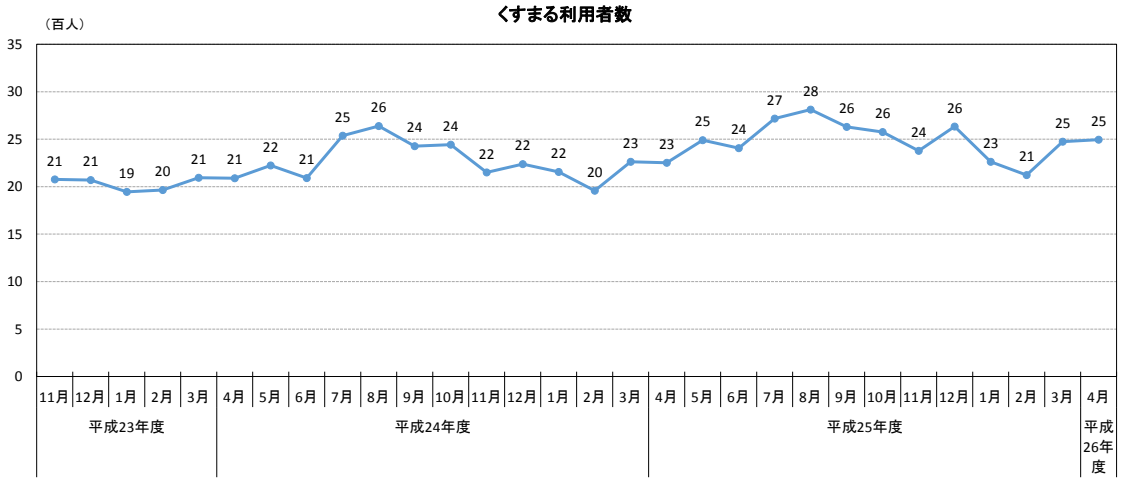
日野・滝畑コミュニティバスの利用者数は、平成１０年度以降減少し、平成１５年６月より貸切運行許可から一般乗合許可へ変更したことにより、１５年度から１６年度にかけては増加しています。平成１７年度以降は、再び減少傾向となっていますが、平成２２年度から平成２３年度にかけては微増した後、平成２４年度に微減となり、平成２５年度には再び微増しています。



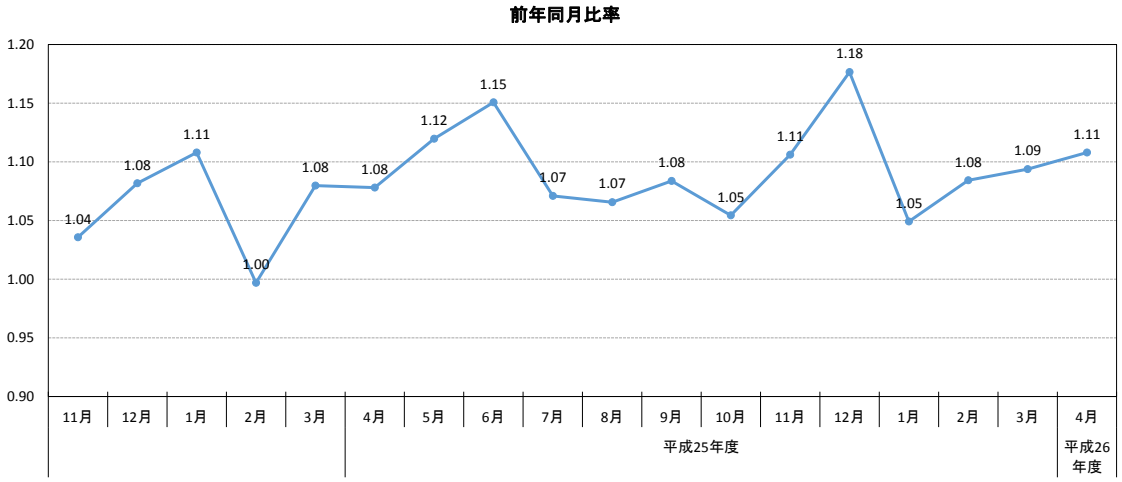
資料:河内長野市調べ

⑧楠ヶ丘地域乗合タクシーの利用者数の推移

楠ヶ丘地域の乗合タクシーは、8 月が最も多く、2 月が最も少なくなっていますが、前年同月で比較すると 1.0 以上と、増加傾向となっています。



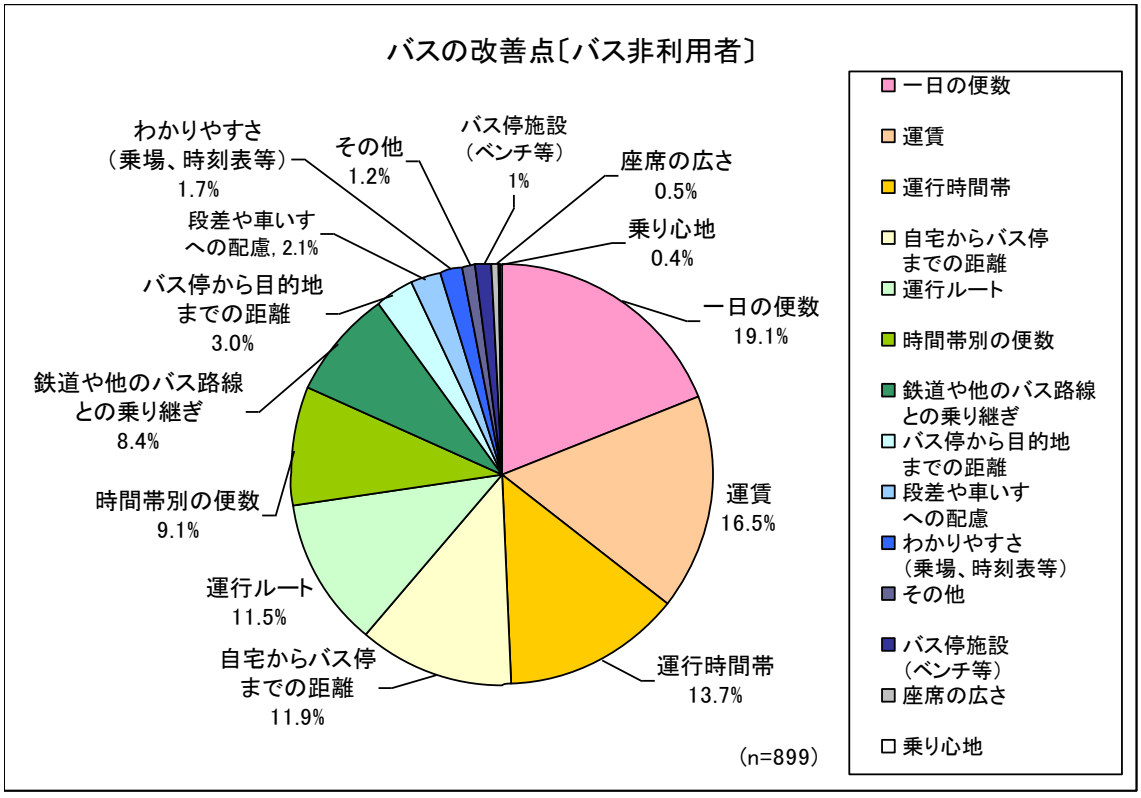
資料:河内長野市調べ



資料:河内長野市調べ

⑨バスの改善点

バスの改善点について、バスを利用していない人の意見は、「一日の便数」が約２割と最も多くなっており、次いで「運賃」「運行時間帯」「自宅からバス停までの距離」「運行ルート」となっています。



アンケートの概要：配布数5，000人（20歳以上の世帯主）
回収数2，388人（回収率：47．76％）
出典：河内長野市の公共交通を考えるための市民アンケート調査結果（H18年度実施）